

平成29事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 平成 29 事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36 回 ・開催日数 288 日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	12 日	東京競馬場	5 回	45 日
函館競馬場	2 回	12 日	中京競馬場	4 回	26 日
福島競馬場	3 回	20 日	京都競馬場	5 回	44 日
新潟競馬場	3 回	26 日	阪神競馬場	5 回	42 日
中山競馬場	5 回	41 日	小倉競馬場	2 回	20 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

発 売 金	2 兆 7,689 億 9,286 万 3,200 円
入場人員	617 万 5,238 名

③ 国庫納付金

第 1 国庫納付金	2,757 億 8,395 万 7,790 円
第 2 国庫納付金	296 億 5,722 万 5,757 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		数 式	当該事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金額／職員数	1,568,736千円
	対入場人員	入場人員数／職員数	3,512人
対売上収益率		剰余金／売得金額	2.15%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

登録の種類	〔J R A所属〕			〔その他〕 ※ i ii	
	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	135名	117名	2,400名	5(5)名	38名
競走馬登録	5,358頭	5,192頭	8,574頭	7(7)頭	106頭
服色の登録	140件	132件	1,904件	5(5)件	—

- ※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

免許の種類	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	本事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
調教師の免許	200名	0名	200名	—	7名	94名
騎手の免許	136名	2名	134名	14名	12名	101名

- ※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数
ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（平成28年購買の2歳馬74頭及び平成29年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳馬6頭、1歳馬5頭及び2歳馬8頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、5名が卒業しました。平成29事業年度末現在の在校生数は18名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 7,465,342,865 円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 3,958,595,216 円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 3,125,295,820 円

2号給付金 3,016,494,460 円

合計金額 6,141,790,280 円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 1,000,000,000 円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

地方競馬全国協会が行う「認定競馬活性化計画補助業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 4,410,370,016 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	14 日	2 回	12 日	2 回	12 日
函館競馬場	2 回	12 日	2 回	12 日	2 回	12 日
福島競馬場	4 回	24 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	3 回	28 日	3 回	24 日	3 回	26 日
中山競馬場	4 回	33 日	5 回	42 日	5 回	41 日
東京競馬場	5 回	46 日	5 回	46 日	5 回	45 日
中京競馬場	4 回	24 日	4 回	24 日	4 回	26 日
京都競馬場	5 回	47 日	5 回	47 日	5 回	45 日
阪神競馬場	5 回	40 日	5 回	41 日	5 回	41 日
小倉競馬場	2 回	20 日	2 回	20 日	2 回	20 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 発売金及び開催競馬場入場人員

事業年度	発 売 金	入場人員
平成 26 年	2,499,611,579,700 円	6,142,471 名
平成 27 年	2,588,691,862,100 円	6,317,073 名
平成 28 年	2,688,449,518,700 円	6,300,662 名

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
平成 26 年	249,362,772,940 円	19,833,650,359 円
平成 27 年	258,339,186,980 円	24,228,431,130 円
平成 28 年	268,039,029,810 円	29,325,628,755 円

④ 主な業績項目の数値

項 目		平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,406,445 千円	1,473,697 千円	1,529,030 千円
	対入場人員	3,464 人	3,603 人	3,594 人
対売上収益率		1.59%	1.87%	2.18%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 26 年	160 名	121 名	2,335 名	3(3) 名	35 名
平成 27 年	158 名	133 名	2,360 名	5(3) 名	39 名
平成 28 年	147 名	125 名	2,382 名	2(6) 名	30 名

② 競走馬登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕※ i ii	
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 26 年	4,896 頭	5,000 頭	7,765 頭	6(6) 頭	77 頭
平成 27 年	5,081 頭	5,057 頭	7,789 頭	7(7) 頭	103 頭
平成 28 年	5,445 頭	4,972 頭	8,262 頭	4(4) 頭	92 頭

③ 服色の登録

事業年度	〔J R A 所属〕			〔その他〕※ i
	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係
平成 26 年	117 件	117 件	1,910 件	3(3) 件
平成 27 年	132 件	140 件	1,902 件	5(3) 件
平成 28 年	113 件	119 件	1,896 件	2(6) 件

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）
ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iv v	
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
平成 26 年	203 名	1 名	202 名	6 名	69 名
平成 27 年	200 名	1 名	199 名	7 名	87 名
平成 28 年	199 名	2 名	197 名	4 名	83 名

② 騎手の免許

事業年度	〔J R A所属〕 ※ i ii			〔その他〕 ※ iii iv v		
	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	短期	国際関係	地方関係
平成 26 年	130 名	3 名	127 名	25 名	13 名	68 名
平成 27 年	130 名	2 名	128 名	14 名	9 名	91 名
平成 28 年	133 名	0 名	133 名	24 名	7 名	70 名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数 (延人数)
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数 (延人数)
 v 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数 (延人数)

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1歳馬	2歳馬
			平成 26 年	168(21)頭	7(7)頭
平成 27 年	168(22)頭	8(8)頭	81(7)頭	79(7)頭	
平成 28 年	168(20)頭	5(5)頭	82(8)頭	81(7)頭	

※ ()内は育成した J R A 生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
平成 26 年	6 名	18 名
平成 27 年	4 名	18 名
平成 28 年	6 名	18 名

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

① 平成26年、平成27年及び平成28年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。

② 競馬振興事業

事業年度	金額
平成26年	2,070,294,352円
平成27年	4,894,213,773円
平成28年	17,010,950,160円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金額
平成26年	1,517,102,999円
平成27年	2,921,391,621円
平成28年	2,567,101,421円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金額
平成26年	4,373,451,550円
平成27年	4,191,765,190円
平成28年	5,385,899,940円

(内訳)

1号給付金	2号給付金
2,016,348,810円	2,357,102,740円
2,334,714,270円	1,857,050,920円
2,662,825,980円	2,723,073,960円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金額
平成26年	1,050,000,000円
平成27年	1,350,000,000円
平成28年	600,000,000円

(10) 認定競馬活性化計画補助業務への交付

事業年度	金額
平成 26 年	999,289,190 円
平成 27 年	1,029,292,700 円
平成 28 年	903,396,217 円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

平成 26 年、平成 27 年及び平成 28 年の各事業年度について、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条に基づき委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務（平成 34 事業年度までの間）
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う認定競馬活性化計画補助業務に対し、交付金を交付する業務（平成 34 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条
競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	住 所	電話番号
本 部	106-8401	港区六本木 6 丁目 11 番 1 号	03-3591-5251
馬 事 公 苑	158-8523	世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競 馬 学 校	270-1431	白井市根 835 番地の 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	320-0856	下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
日 高 育 成 牧 場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮 崎 育 成 牧 場	880-0036	宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東トレーニング ・センター	520-3085	栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦トレーニング ・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札 幌 競 馬 場	060-0016	札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函 館 競 馬 場	042-8585	函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福 島 競 馬 場	960-8114	福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新 潟 競 馬 場	950-3301	新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中 山 競 馬 場	273-0037	船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東 京 競 馬 場	183-0024	府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中 京 競 馬 場	470-1132	豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京 都 競 馬 場	612-8265	京都市伏見区葭島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪 神 競 馬 場	665-0053	宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小 倉 競 馬 場	802-0841	北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	0

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等 (平成 29 年末現在)

(1) 役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	後藤 正幸	2017年9月12日～2020年9月11日	日本中央競馬会常務理事
副理事長	町田 勝弘	2017年3月1日～2020年2月29日	(一社) J A 共済 総合研究所理事長
常務理事	木所 康夫	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会理事
常務理事	山下 正行	2017年3月1日～2018年9月30日	日本中央競馬会理事
理 事	福井 紳弥	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会 美浦トレーニングセンター場長
理 事	峯島 善弘	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会 ウインズ事業運営部長
理 事	中村 嘉宏	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会審判部長
理 事	谷崎 潤	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会 栗東トレーニングセンター場長
理 事	木村 一人	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会 総合企画部長
理 事	吉田 正義	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会競走部長
理 事	吉崎 一郎	2017年3月1日～2019年2月28日	日本中央競馬会 東京競馬場長
監 事	小日向照夫	2017年10月1日～2019年9月30日	日本中央競馬会人事部長
監 事 (非常勤)	矢島 匡	2016年9月16日～2018年9月15日	弁護士
監 事 (非常勤)	小谷実可子	2016年9月16日～2018年9月15日	NPO法人 日本ホスピタリティ協会理事

(3) 役員の変動

- ① 2月28日付けで井上真常務理事が退任し、翌3月1日付けで山下前理事が常務理事に、吉崎一郎前東京競馬場長が理事に任命されました。
- ② 3月1日付けで町田勝弘副理事長、木所康夫常務理事、福井紳弥理事、峯島善弘理事、中村嘉宏理事、谷崎潤理事、木村一人理事、吉田正義理事が再任されました。
- ③ 9月12日付けで後藤正幸理事長が再任されました。
- ④ 9月30日付けで安齊了監事が退任し、翌10月1日付けで小日向照夫前人事部長が監事に任命されました。

5. 職員の定数及びその増減（平成 29 年末現在）

職員の定数	前期末比増減
1, 7 5 8 人	5 人

6. 日本中央競馬会の沿革

昭和 2 9 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本中央競馬会の設立（9 月 16 日） 昭和 23 年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）により設立
平成 3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
平成 1 7 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は平成 16 年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12 月 24 日） <ul style="list-style-type: none"> ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
平成 1 9 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 <ul style="list-style-type: none"> ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1 号給付金及び 2 号給付金を交付する業務の新設
平成 2 4 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
平成 2 7 年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（平成 29 年末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第 8 条の 2 の規定に基づいて設置され、農林水産大臣が任命する委員 6 人及び理事長の 7 人により構成されています。

(1) 各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
青山 佳世	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	フリーアナウンサー
上田 廣一	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	弁護士
小林 栄三 (委員長代理)	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	伊藤忠商事 (株) 会長
近藤 和行	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	(株) 読売新聞東京本社編集委員
矢野 秀雄	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	京都大学名誉教授
和田 紀夫 (委員長)	2016 年 9 月 1 日～2019 年 8 月 31 日	日本電信電話 (株) 特別顧問

(2) 経営委員会の開催概要

- ① 第 1 回経営委員会（1 月 24 日）
 - ・ 平成 28 年度の中央競馬の実績の報告 ほか
- ② 第 2 回経営委員会（2 月 21 日）
 - ・ 役員任命について（案）の同意
 - ・ 平成 29 事業年度予算実施計画（案）の議決
 - ・ 海外競馬の勝馬投票券の発売について（平成 29 年 3 月～5 月）（案）の議決
 - ・ 日本中央競馬会外国勤務者給与規程の一部改正について（案）の議決 ほか
- ③ 第 3 回経営委員会（3 月 16 日）
 - ・ 平成 28 事業年度決算（案）の議決 ほか
- ④ 第 4 回経営委員会（4 月 20 日）

- ・ プリークネスステークス及びベルモントステークスの勝馬投票券の発売について（案）の議決
- ・ 平成 28 事業年度経営目標の達成状況に係る自己評価について ほか
- ⑤ 第 5 回経営委員会（5 月 18 日）
 - ・ 平成 28 事業年度経営目標の達成状況の評価
 - ・ 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正について（案）の議決 ほか
- ⑥ 第 6 回経営委員会（6 月 15 日）
 - ・ 海外競馬の勝馬投票券の発売（平成 29 年 7 月～10 月）について（案）の議決
 - ・ 場外設備の変更申請について（後樂園場外勝馬投票券発売所）（案）の議決 ほか
- ⑦ 第 7 回経営委員会（7 月 20 日）
 - ・ 札幌場外勝馬投票券発売所に係る整備計画についての報告 ほか
- ⑧ 第 8 回経営委員会（8 月 2 日～8 月 9 日） ※書面表決
 - ・ りんくうタウン場外勝馬投票券発売所の設置について（案）の議決 ほか
- ⑨ 第 9 回経営委員会（9 月 5 日）
 - ・ 平成 29 事業年度の 1 号給付金の交付（追加）及び 12 月 28 日の払戻金の率について（案）の議決
 - ・ 場外設備の変更申請について（札幌場外勝馬投票券発売所）（案）の議決
 - ・ 海外競馬の競走の勝馬投票券の発売について（平成 29 年 11 月～12 月）（案）の議決 ほか
- ⑩ 第 10 回経営委員会（10 月 4 日）
 - ・ 平成 30 事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決 ほか
- ⑪ 第 11 回経営委員会（11 月 14 日）
 - ・ 平成 30 事業年度経営目標（案）の決定
 - ・ 平成 30 事業年度事業計画（案）の議決
 - ・ 平成 30 事業年度収支予算（案）の議決
 - ・ 平成 30 事業年度 1 号給付金及び 2 号給付金の交付について（案）の議決 ほか
- ⑫ 第 12 回経営委員会（12 月 12 日）
 - ・ 平成 30 事業年度収支予算（変更案）の議決

- ・ 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正について（案）の議決
- ・ 勝馬投票券の発売等の事務の委託に伴う場外設備の変更申請について（種市場外勝馬投票券発売所）（案）の議決
- ・ 日本中央競馬会法第8条の3第2項第6号に該当する経営委員会の議決事項について（案）の議決　ほか

10. 運営審議会の概要（平成29年末現在）

日本中央競馬会法第16条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏名	任期	職名等
大西 洋	2017年9月16日～2019年9月15日	前(株)三越伊勢丹ホールディングス 代表取締役社長
大八木 信行	2017年9月16日～2019年9月15日	日本馬主協会連合会 会長
岡本 金彌	2017年9月16日～2019年9月15日	元日本中央競馬会 副理事長
川崎 麻児	2017年9月16日～2019年9月15日	日本画家
木村 貢	2017年9月16日～2019年9月15日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
鈴木 淑子	2017年9月16日～2019年9月15日	競馬ジャーナリスト
高嶋 達佳	2017年9月16日～2019年9月15日	東京都現代美術館館長
武 豊	2017年9月16日～2019年9月15日	日本騎手クラブ 会長
橋田 満	2017年9月16日～2019年9月15日	(一社)日本調教師会 会長
松本 好雄	2017年9月16日～2019年9月15日	中央競馬馬主相互会 会長

（2）運営審議会の開催概要

- ① 第1回運営審議会（3月9日）
 - ・ 平成28事業年度決算（案）について
- ② 第2回運営審議会（10月3日） ※書面表決
 - ・ 平成30事業年度事業計画（案）（「競馬番組の充実」に係る部分）について
- ③ 第3回運営審議会（11月9日）

- ・ 平成 30 事業年度事業計画（案）について
- ・ 平成 30 事業年度収支予算（案）について

（３）委員の異動

9 月 15 日付で大橋茂樹委員、齋藤由香委員、高岡和弘委員、森保彦委員が退任し、9 月 16 日付で大西洋氏、大八木信行氏、鈴木淑子氏、高嶋達佳氏が新たに委員に任命されました。

1 1. 公正審査会議の概要（平成 29 年末現在）

日本中央競馬会法第 20 条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（１）各委員の氏名、任期及び経歴

氏名	任期	経歴
石木 俊治	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2017 年 11 月 1 日～2019 年 9 月 6 日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	元 広島高等検察庁検事長
酒井 啓子	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	(公財) 日本女性学習財団理事
福地 献一	2017 年 9 月 7 日～2019 年 9 月 6 日	(株)朝日新聞社取締役

（２）委員の異動

9 月 6 日付けで頃安健司委員が退任し、9 月 7 日付けで酒井邦彦氏が新たに委員に任命されました。また、9 月 7 日付けで石木俊治氏、石原葵氏、酒井啓子氏、福沢恵子氏、福地献一氏、宮本和夫氏が委員に再任されました。

10 月 31 日付で宮本和夫委員が退任し、11 月 1 日付けで井上美昭氏が新たに委員に任命されました。

(3) 公正審査会議の開催概要

- ① 第1回公正審査会議（1月13日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消し1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更2件）
- ② 第2回公正審査会議（2月8日）
 - ・ 平成29年度調教師・騎手免許について
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
- ③ 第3回公正審査会議（3月17日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更2件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消し猶予1件）
- ④ 第4回公正審査会議（4月13日）
 - ・ 第1回馬主登録に関する審査について（25件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更1件）
- ⑤ 第5回公正審査会議（5月19日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更1件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加1件）
 - ・ 馬主登録審査基準の改正について
- ⑥ 第6回公正審査会議（6月9日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者死亡に伴う限定的代表者の限定解除1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更2件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更1件）
- ⑦ 第7回公正審査会議（7月6日）
 - ・ 第2回馬主登録に関する審査について（39件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更1件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主から個人馬主への登録変更1件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更1件）

- ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑧ 書面審査（7月28日～8月3日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者死亡に伴う限定的代表者変更1件）
- ⑨ 書面審査（8月29日～9月6日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者死亡に伴う代表者変更1件）
- ⑩ 第 8 回公正審査会議（9 月 15 日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更 3 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員追加 1 件）
- ⑪ 第 9 回公正審査会議（10 月 13 日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更 1 件）
 - ・ 馬主登録審査基準及び馬主登録審査基準関連事項の見直しについて
- ⑫ 美浦トレーニング・センター視察（10 月 26 日）
- ⑬ 第 10 回公正会議（11 月 10 日）
 - ・ 第 3 回馬主登録に関する審査について（55 件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更 2 件）
- ⑭ 第 11 回公正審査会議（12 月 6 日）
 - ・ 平成 30 年度調教師免許（新規）について
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主から法人馬主への登録変更 2 件）

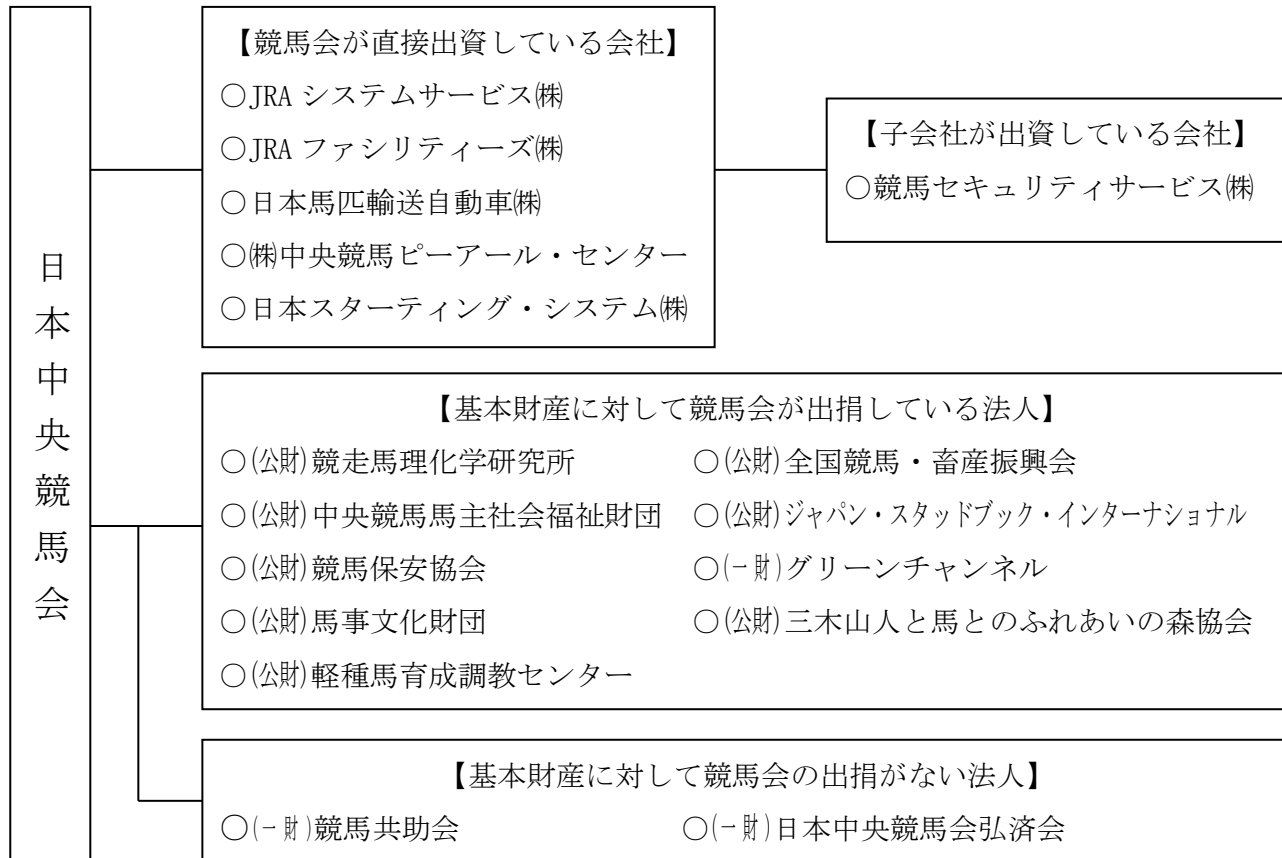
Ⅲ 子会社等に関する事項（平成 29 事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 10 条第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：JRAシステムサービス(株)、JRAファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(-財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(-財)競馬共助会、(-財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 (H28 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (H28 実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 小林 善一郎 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・トータルízeータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸借並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸借 	(百万円) 19,228 579 6,649	(人) 14 (11) 509	ア 15,406百万円 イ ・トータルízeータシステム等の運用保守管理業務 ・トータルízeータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ・電子計算機等のリース業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【平成 19 年 10 月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 横山 清弘 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等 	18,475 724 9,531	13 (10) 424	ア 13,943百万円 イ ・諸施設の清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ・損害保険代理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【昭和 22 年 8 月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 小西 敏之 36,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・競走馬の輸送 	1,940 131 1,269	4 (3) 83	ア 1,907百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【昭和 53 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 星野 年彦 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供 	5,574 123 1,783	7 (5) 106	ア 2,792百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【昭和 40 年 9 月設立】 東京都港区西新橋 1-22-10 代表取締役社長 水野 豊香 10,000千円 100%	<ul style="list-style-type: none"> ・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助 	1,419 108 601	5 (3) 66	ア 1,402百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【平成 4 年 11 月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 山川 雅典 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合警備保障業務 ・労働者派遣業務 	3,080 99 2,046	5 (2) 106	ア 2,792百万円 イ ・諸施設の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (H28 決算額)	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H28 実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【昭和40年8月設立】 栃木県宇都宮市鶴田町 1731-2 理事長 安斉 了 1,029,896千円	<ul style="list-style-type: none"> 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 騎手に施用され、又は騎手を使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究 	(百万円) 1,199	(人) 6 (3) 44	ア 910百万円 イ 「日本中央競馬会競馬の施行等に関する規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する研究委託業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【昭和44年10月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5,509,716千円	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉を目的とする事業に対する助成 国又は地方公共団体が後援等を行っている公益事業に対する助成 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業 	524	11 (1) 5	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事(非常勤) 後藤 正幸(競馬会理事長) 理事(非常勤) 木所 康夫(競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【昭和46年5月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 宮本 和夫 10,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集 競馬の公正確保のために必要な研究 	1,549	5 (5) 144	ア 1,450百万円 イ 競馬の公正確保上必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【昭和51年4月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 小島 薫 1,750,741千円	<ul style="list-style-type: none"> 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料(以下「馬事博物資料」)の収集、保管及び展示 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営 	674	7 (2) 21	ア 279百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA競馬博物館」及び「Gate.J」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【平成3年3月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 大平 俊明 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 軽種馬の競走能力の向上等に関する調査研究 育成調教技術者の養成 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理 	739	6 (2) 40	ア 453百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【平成3年10月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会長 齊藤 茂 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 畜産の振興に資するための事業等に対する助成 	151	8 (2) 9	ア 78百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (H28 決算額)	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (H28実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 【平成22年12月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 和田 雅雄 1,040,830千円	<ul style="list-style-type: none"> 海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 軽種馬の登録及び登録証明書の発行 軽種馬の登録書その他関係図書の刊行 	(百万円) 845	(人) 6 (3) 34	ア 478百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 谷崎 潤(競馬会理事)
(一財)グリーンチャンネル 【平成5年9月設立】 東京都江東区永代1-14-5 理事長 田村 正明 1,000,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 競馬及び農林水産業に関する通信衛星を利用した放送業務 競馬、馬事及び畜産に関する番組の制作及びその支援 	3,882	8 (3) 24	ア 44百万円 イ 通信衛星を利用した中央競馬関連の映像情報に関する番組制作、配信等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【平成6年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 増田 純一 200,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 野外、体験活動等による交流事業の実施 馬事に関する普及啓発 乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理 	457	8 (2) 17	ア 185百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(一財)競馬共助会 【昭和23年9月設立】 東京都府中市日吉町1-1 会長 金田 裕之 1,500,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 診療所及び厚生会館の運営 競馬愛好者の利便に資するための厚生施設の管理・運営 競馬文化発展に資する事業 	3,307	7 (3) 83	ア 609百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 谷崎 潤(競馬会理事)
(一財)日本中央競馬会弘済会 【昭和39年12月設立】 東京都港区六本木6-11-1 会長 鈴木 良治 1,600,000千円	<ul style="list-style-type: none"> 畜産に関する調査研究及び資料の収集 職員の福利厚生に関する事業 	167	7 (1) 8	ア 0.05百万円 イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(平成7年2月24日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等をすすめることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(平成13年12月19日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(平成17年12月24日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、平成22年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和。
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置。
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施。
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表。
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入。

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（平成 14 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（平成 14 年 10 月 1 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(平成 29 年)

- J R Aは、毎週走り続けます。 -

(平成 29 事業年度事業報告書別冊)



はじめに

JRAでは、平成29事業年度については、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の5項目で構成する「経営の基本方針」に沿った事業活動を行ってまいりました。

競馬の開催においては、お客様が参加しやすい開催日程の設定に取り組み、全国10か所の競馬場において、経営の基本目標の1つである、年間288日（36開催）の競馬を着実かつ円滑に実施することができました。

競走面では、新たにGⅠ競走に昇格した大阪杯に、昇格初年度から多くのお客様にご参加いただきました。優勝したキタサンブラックは、その後、天皇賞（春）、天皇賞（秋）、有馬記念を制し、見事2年連続の年度代表馬に輝くとともに、その活躍が競馬に馴染みのない方々も含めて世間に広く認知されることとなりました。また、同じくGⅠ昇格となったホープフルステークスは、年末の一大イベントとして12月28日（木）に実施し、併せて、特別な払戻率「JRAスーパープレミアム」や地方競馬と連携した「ヤングジョッキーズシリーズ ファイナルラウンド」等の施策を展開することによって、大いなる賑わいを見せました。

一方、騎手の世界では、クリストフ・ルメール騎手が外国人初となるJRA最多勝利騎手を獲得するとともに、GⅠ競走でミルコ・デムーロ騎手が活躍したほか、長年にわたり、国内外で競馬の発展に多大な貢献を果たしたとして、武豊騎手がロンジンIFHA国際功労賞を受賞いたしました。

このような世界レベルかつ個性溢れる競走馬や騎手による充実した競馬の提供及び平成29年のJRAの事業活動について事業計画の項目毎に取りまとめた本報告書に記載の様々な施策により、お客様に「レースの迫力」「馬の美しさ」「推理の楽しみ」が一体となった競馬の魅力を実感していただき、「夢と感動」をお届けできたものと考えております。

その結果、経営の基本目標の1つである、中央競馬のお客様総数（海外競馬分を含む）は、延べ1億7,950万人余（対前年比104.4%）と、4年連続で前年を上回る結果となりました。また、勝馬投票券の発売金（海外競馬分を含む）も、2兆7,689億円余（対前年比：103.0%）と、6年連続で前年実績を上回りました。

JRAは、平成29年の事業活動の結果を的確にフィードバックし、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の更なる魅力向上、競馬への参加促進及び販売促進とホスピタリティの更なる向上、より一層の社会貢献活動等に努めてまいります。

<目次>

○ 平成29事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
2. 競馬の公正確保の徹底・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
3. 競馬への参加促進施策の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ P 12
4. 販売促進施策の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 18
5. 馬事振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22
6. 社会貢献活動とCSR・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23
7. 施設及びコンピュータ・システムの整備・・・・・・・・ P 27
8. 事業構造の改善に関する取組み・・・・・・・・・・・・・・・・ P 29

平成29事業年度事業計画に掲げた項目等の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

項目	内訳	具体的な内容
(1) 開催計画		<ul style="list-style-type: none"> ○ 288日(36開催)の競馬開催を全国10か所の競馬場において実施。なお、積雪の影響により、第1回中京競馬第2日、第1回京都競馬第5日及び第1回小倉競馬第1日を中止。それぞれ代替競馬の開催に向けて的確に対応 ○ より多くのお客様にご参加いただくため、土・日曜日以外の祝日における競馬開催を3月20日(祝・月)、9月18日(祝・月)、10月9日(祝・月)及び11月3日(祝・金)に設定。また、年末の開催を12月28日(木)に設定
(2) 重賞競走の改善		
	① 3(4)歳以上馬の中距離競走体系の整備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中距離適性を持つ一流馬の国内の春季競馬における出走機会を拡充し、お客様により魅力ある競走を提供するため、産経大阪杯をGⅡからGⅠに昇格。なお、競走名を大阪杯(GⅠ)として実施。また、このことに伴い、同一年度に大阪杯、天皇賞(春)及び宝塚記念のすべての競走に優勝した馬に対し、褒賞金(内国産馬:2億円、外:1億円)を交付 ○ 金鯨賞(GⅡ)を移設し、中山記念(GⅡ)と金鯨賞(GⅡ)の優勝馬に大阪杯(GⅠ)への優先出走権を付与 ○ 金鯨賞(GⅡ)の移設に伴い、12月の中距離競走体系を整備する観点から、チャレンジカップ(GⅢ)を、中日新聞杯(GⅢ)をそれぞれ移設。なお、チャレンジカップ(GⅢ)は、併せて競走距離及び負担重量を変更
	② 実施日・出走資格の変更	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中央競馬の最終開催日を盛り上げるため、2歳中距離路線の頂点としてGⅠに昇格したホープフルステークスを12月28日(木)に実施。また、ラジオNIKKEI杯京都2歳ステークス(GⅢ)を地方競馬所属馬が出走できるホープフルステークス(GⅠ)のステップ競走とするため、出走資格を変更 ○ 3日開催の実施時期の変更等に伴い、一部重賞競走の実施日を変更
	③ 競走名を変更する競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ セントウルステークス(GⅡ)を産経賞セントウルステークス(GⅡ)へ改称。また、平成29年は、日本とアイルランドとの外交関係樹立60周年にあたることから、これを記念して、府中牝馬ステークス(GⅡ)をアイルランドトロフィー府中牝馬ステークス(GⅡ)へ改称
	④ 重賞競走の格付け	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホープフルステークス(GⅡ)についてはGⅠ昇格

		を、ターコイズステークス（重賞）については新規格付けのGⅢ取得をそれぞれ日本グレード格付け管理委員会に申請し、追加承認を受け格付け表記を変更
(3) 交流競走における見習騎手の負担重量の減量適用		○ 見習騎手の騎乗機会の拡充を図るため、平成29年4月1日以降に実施される中央及び地方競馬の交流競走において、見習騎手の負担重量の減量を相互適用。なお、中央競馬の競走（特別競走を除く）において、負担重量の減量を適用する地方競馬所属騎手は、「騎手免許取得後5年未満で勝利度数100回以下の騎手」として実施
(4) ヤングジョッキーズシリーズの実施		○ 見習騎手の注目度を一段と高め、騎乗数の増加及び騎乗技術の向上を図るとともに、年末の中央及び地方競馬双方を盛り上げるため、中央及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施
(5) 競走の国際的な交流の推進		
	① 国際交流競走への外国調教馬の参加実績	○ 安田記念に2頭、スプリンターズステークスに1頭、ジャパンカップに4頭の外国調教馬が出走
	② 国際競馬シリーズの振興	○ 国際交流競走の振興と世界規模でのスプリントチャンピオンを決定することを目的として、イギリスのアスコットオーソリティとニューマーケットレースコースーズトラスト、オーストラリアのレーシングヴィクトリアリミテッド、アラブ首長国連邦のドバイレーシングクラブ及び香港ジョッキークラブの各主催者と提携し、「グローバルスプリントチャレンジ」（全10戦）を実施。日本ではシリーズの第3戦（高松宮記念）及び第8戦（スプリンターズステークス）を実施
	③ 外国の競走への中央競馬所属馬の参加実績	○ 外国の競走への中央競馬所属馬の出走を支援し、延べ29頭（うち1頭は出走取消）がアメリカ、アラブ首長国連邦、韓国、フランス及び香港に遠征 ○ JRA所属馬の優勝実績(カッコ内は国名と競走馬名) ・ ドバイターフ（アラブ首長国連邦、ヴィブロス） ・ クイーンエリザベス2世カップ（香港、ネオリアリズム） ・ コリアスプリント（韓国、グレイスフルリープ） ・ コリアカップ（韓国、ロンドンタウン）
	④ ワールドオールスタージョッキーズ	○ 海外及び地方競馬の実力や話題性のある騎手7名（フランス、カナダ、香港、イギリス、船橋各1名、オーストラリア2名）を招待したワールドオールスタージョッキーズを第2回札幌競馬第3・4日に実施
(6) 競走馬の資質・能力の向上等の取組み		競走馬総合研究所をはじめとする関係部署においては、平成29年度の研究計画に沿って競走馬の保健衛生、調教管理、生産及び育成などに関する研究を実施。また、その成果を活用し、診療・防疫体制の整備、事故防止及び生産育成基盤の強化等に取り組むとともに、競

	走馬総合研究所のホームページや刊行物、講演会等を通じて、馬及び競馬の科学情報として発信
① 競走馬の資質・能力の向上	
i) 競走馬の育成を通じた取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、サラブレッド市場購買馬（平成28年購買の2歳馬74頭及び平成29年購買の1歳馬74頭）を用いて、育成に関する研究を実施 また、日高育成牧場に繋養しているサラブレッド繁殖牝馬及びその産駒（生産馬：当歳6頭・1歳5頭・2歳8頭）（※1歳5頭のうち2頭及び2歳8頭のうち2頭は宮崎育成牧場に繋養）を用いて、生産・育成に関する研究を実施 ○ 育成研究に供した2歳馬は、4月に中山競馬場で開催したJRAブリーズアップセールにて生産馬5頭を含む69頭を、5月に札幌競馬場で開催された北海道トレーニングセールにて生産馬2頭を含む8頭を売却 ○ 実践的な技術指導、講習会、ホームページなどを通じ、生産育成研究及び技術開発によって得られた成果を普及・啓発
ii) 生産育成基盤の強化	<p>【国内生産基盤の整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産者賞の審査・交付認定を実施 ○ 生産育成技術の向上を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬経営高度化指導研修事業に協力 ○ 資質に優れた種牡馬及び繁殖牝馬群の導入や繁殖牝馬流通活性化を目的として、(公社)日本軽種馬協会が実施する優良繁殖馬導入促進事業に協力 ○ 諸団体が実施する国内セリ市場における流通促進及び東南アジア諸国への内国産馬の流通促進に協力 <p>【生産育成に関わる人材養成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生産育成調教技術者の養成を目的として、(公財)軽種馬育成調教センターが実施する育成調教技術者養成事業、(公社)日本軽種馬協会が実施する軽種馬生産育成技術者養成推進事業に助成 ○ 生産育成牧場への若手就業者不足の対応策として、(公社)競走馬育成協会が実施する生産育成牧場への就業者参入促進事業に協力

<p>iii) 地方競馬全国協会を通じた交付金の交付</p>	<p>【競走馬生産振興業務への交付】</p> <p>○ 地方競馬全国協会が行う、軽種馬流通促進・経営基盤強化対策等の「競走馬生産振興業務」に対し、10億円を交付</p> <p>【認定競馬活性化計画補助業務への交付】</p> <p>○ 地方競馬全国協会が行う、認定都道府県等に対する「認定競馬活性化計画補助業務」に対し、44億1,037万16円を交付</p>
<p>② 競走馬の保健衛生対策を通じた取組み</p>	<p>○ 競走馬総合研究所を中心として、スポーツ科学・スポーツ障害・先端獣医療・伝染病対策・生産基盤強化などに関する研究を引き続き実施。また、その成果を普及・啓発するため、学会や講演会などで発表</p> <p>○ バイオテクノロジーなどの先端技術を応用した研究として、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門との共同研究により、「馬感染症の新規診断法開発のための分子生物学的研究（平成27～29年）」を実施</p> <p>○ 軽種馬生産地における疾病などの諸問題を解決する調査研究として、「競走馬の生産・育成技術及び若馬の疾病に関する調査研究（平成29～33年）」を実施</p> <p>○ 外部研究機関への委託により、「低酸素トレーニングが骨格筋の乳酸代謝に及ぼす影響に関する研究（平成29～31年）」や「馬インフルエンザウイルスと特異的に結合する糖鎖材料の合成（平成27～29年）」などの研究を実施</p> <p>○ 競馬サークルへの研究成果の普及及び学術交流を図るため、11月27日に「第59回競走馬に関する調査研究発表会」を開催</p> <p>○ 生産地への研究成果の普及、生産者の研究ニーズの把握を目的とし、7月13日に「第45回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」を開催</p>
<p>③ 競走馬の事故防止対策</p>	<p>○ 競走馬の事故（骨折等）を防止し、充実した競馬実施に資するため、調教施設及び馬場の保安全管理を実施</p> <p>○ 競走馬の事故発生状況を随時調査・分析するとともに、事故防止に対する意識の向上を目的として、厩舎関係者を対象とする各種研修会を開催</p> <p>○ 事故防止に関する調査研究として、競走馬総合研究所を中心に「屈腱炎の評価法に関する調査研究」、「競走中・調教中に発症する重篤な疾患における薬物使用実態及び遺伝学的背景の調査研究」及び「馬場柵等付帯施設の安全性向上に関する研究」を実施</p>
<p>④ 防疫体制の整備</p>	<p>○ 「日本中央競馬会競走馬伝染病防あつ規程」に基づく入厩検疫、定期検査及び予防接種を実施するとともに、環境衛生対策、疫学調査、ワクチン備蓄等の防疫措置を実施</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜伝染病予防法で定められた「飼養衛生管理基準(馬)」に基づいて、本会施設内の衛生管理を実施 ○ 所轄官庁の指導に基づき、国際交流競走に参加する外国馬、及び海外遠征する日本馬の輸出入検疫に付帯する業務を実施 ○ 国際交流競走へ円滑に出走できるよう家畜衛生条件の締結や遠征環境の整備に向けて、馬の移動状況や伝染病の疫学調査についての情報を所轄官庁と共有 ○ 生産育成地における疾病蔓延防止及び本会施設内への疾病侵入阻止を目的とし、(公社)中央畜産会が実施する「馬伝染性疾病防疫推進対策事業」を通じて、本会施設入厩前の育成馬や繁殖牝馬、乗用馬等を対象とした予防接種(馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風、馬鼻肺炎)を推進 ○ 馬伝染性子宮炎の国内清浄化の達成を受け、(公社)日本軽種馬協会が実施する「馬伝染性子宮炎自衛防疫事業」を通じ、清浄化後の疫学監視を推進 ○ 「生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」やトレーニング・センター周辺牧場との防疫協議会を開催し、防疫体制を強化 ○ 国内の防疫体制の強化を目的とし、競走馬総合研究所において、人用インフルエンザ簡易迅速診断キットの馬インフルエンザ診断への応用に関する研究、新しい馬インフルエンザワクチンの接種馬における抗体保有状況調査、両トレーニング・センターの馬鼻肺炎血清疫学調査、馬ピロプラズマ病診断用 IFA プレートの作製及び抗原性の検証、及び血清学的試験を中心とした鼻疽検査法の検討を実施 ○ 国内外の伝染病情報や飼養管理に関する情報を軽種馬防疫協議会へ提供するとともに、「馬飼養衛生管理特別対策事業」における講習会等を通じて、馬防疫思想を普及
(7) 馬主活動の促進		
	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規馬主開拓 ② 既存馬主の活動促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬主活動を各種媒体でPRするとともに富裕層向け競馬観戦会を実施 ○ GI開催競馬場において出走記念昼食会を実施 ○ 50年以上馬主登録を継続している馬主に対し、永年馬主表彰を実施 ○ 新規馬主競馬観戦会及びトレーニング・センター見学会を実施 ○ 馬主用ホームページを開設
(8) 厩舎運営の活性化		
	<ul style="list-style-type: none"> ① 定期貸付馬房について 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各調教師からの貸付馬房数の申請受付と成績査定を行ったうえ、3月1日付で栗東トレーニング・センターでは2,010馬房を、美浦トレーニング・センターでは1,988馬房をそれぞれ貸付け

	<p>② その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業年度途中の調教師の勇退等に伴い、トレーニング・センターにおける定期貸付け及び臨時貸付けを適正に実施 ○ 調教助手・厩務員（調教厩務員を含む）の承認等に伴う、平成29年末の状況 <ul style="list-style-type: none"> a) 調教助手 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年末 1,697名 新規に承認した者 58名 (栗東29名、美浦29名) 平成29年末現在 1,709名 (栗東958名、美浦751名) b) 厩務員 <ul style="list-style-type: none"> 平成28年末 713名 新規に採用された者 25名 (栗東0名、美浦25名) 平成29年末現在 683名 (栗東246名、美浦437名) ○ 厩舎制度の改善に向けた（一社）日本調教師会の取組みを支援
<p>(9) 厩舎関係者の養成等について</p>		
	<p>① 競馬学校騎手課程生徒の養成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騎手課程においては、平成26事業年度入学の第3期生5名が卒業 【平成29年末現在の在校生徒状況】 1年生 8名（36期生8名）（基礎課程） 2年生 7名（35期生7名）（8月29日以前は基礎課程、以降は実践課程） 3年生 3名（34期生3名）（実践課程）
	<p>② 競馬学校厩務員課程生徒の養成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 厩務員課程においては、48名が卒業
	<p>③ 厩舎関係者の研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的な技術と見識を備えた優秀な厩舎関係者の養成を図ることを目的として、（一社）日本調教師会が実施する厩舎関係者海外研修事業に助成 ○ 厩舎関係者の学習ニーズを踏まえた、現役馬術選手が厩舎関係者を指導する講習会や、専門的かつ実用的なトレセン研修を実施 ○ 新規調教師免許試験合格者に対し、免許取得後に必要となる知識を習得するための研修を実施
<p>(10) 地方競馬との交流競走</p>		
	<p>① 地方競馬指定交流競走</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方競馬において、ダート交流重賞競走として40競走（11主催者）が実施され、全ての競走に延べ200頭の中央競馬所属馬が出走し、34競走で優勝 ○ 地方競馬における条件交流競走は156競走（13主催者）が実施され、延べ899頭の中央競馬所属馬が出走 ○ 本賞金総額の50%（九州産馬限定競走は90%）を上限として交流競走協力金を交付

② 認定競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地方競馬において、174競走（11主催者）の認定競走を実施 ○ なお、平成29年も全ての主催者において、上位に格付けされた競走を認定競走として実施（北海道においてのみ従来の新馬・未勝利クラスの認定競走も併せて実施） ○ 本賞金総額の90%を上限として認定競走協力金を交付
③ 中央競馬指定交流競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ ダート重賞15競走を中央競馬指定交流競走として実施し、そのうち5競走に地方競馬所属馬が延べ7頭出走 ○ 芝のGI競走とそのステップ競走を中央競馬指定交流競走として実施。ステップ競走には6競走に地方競馬所属馬が延べ6頭出走（GI競走に出走した地方競馬所属馬はなし）
④ 中央競馬特別指定交流競走	<ul style="list-style-type: none"> ○ 認定競走の優勝馬が出走できる中央競馬特別指定交流競走には、2歳では21競走に延べ37頭、3歳では39競走に延べ49頭の地方競馬所属馬が出走

2. 競馬の公正確保の徹底

項目	内訳	具体的な内容
(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施		
① 登録及び免許の実施状況		
i) 馬主登録		
平成28年末		2,382名（うち個人2,014、法人316、組合52）
新規登録		135名（うち個人112、法人21、組合2）
登録抹消		117名（うち個人110、法人3、組合4）
平成29年末現在		2,400名（うち個人2,016、法人334、組合50）
ii) 競走馬登録		
平成28年末		8,262頭
新規登録		5,358頭（うち再登録333頭）
登録抹消		5,192頭
平成29年末現在		8,428頭
iii) 服色登録		
平成28年末		1,896件
新規登録		140件
登録抹消		132件
平成29年末現在		1,904件
iv) 調教師免許		
平成28年末		197名
免許不更新の者		4名
平成28事業年度免許者		200名

	〔3月1日付 更新193名、新規7名〕 ※その後、取消者0名 平成29年末現在 200名
v) 騎手免許	平成28年末 133名 免許不更新の者 2名 平成28事業年度免許者 136名 〔3月1日付 更新131名、新規5名〕 ※その後、取消者2名 平成29年末現在 134名
	※ i) ~ v) について、いずれも国際交流競走、国際騎手招待競走及び地方競馬との指定交流競走は除く数
② 短期免許の交付	○ 外国人騎手の短期免許について、平成29事業年度は10名（延べ14名）に臨時試験による短期免許を交付
③ クラブ法人への対応	○ クラブ法人関連について、金融商品取引法関連法令に基づく登録業者の指導を監督官庁との連携のもと実施
④ 制裁等の厳正な実施	
i) 公正確保の維持	○ 「公正確保」は、競馬に対する社会的信用を維持するうえでの根幹となるものであることから、公正確保上対応が必要な事案に関して調査等を実施するとともに、厩舎関係者に対し適宜指導を行う等主催者として最大限の努力を傾注 ○ 平成29事業年度については、騎手による道路交通法違反事案（無免許運転及び速度超過）が1件、未成年の騎手による非行事案が1件発生したため、調査のうえ裁定委員会を開催し、道路交通法違反事案については騎乗停止6ヶ月、未成年騎手の非行事案については騎乗停止3ヶ月の処分を実施 ○ 騎乗依頼仲介者制度については、騎手・調教師・馬主等との意見交換を経て、騎乗依頼仲介者の勝馬投票券購入の禁止等を盛り込んだ新制度を策定し、平成30年から施行
ii) 騎手・調教師に対する制裁	○ 競馬開催における騎手に対する制裁は、戒告・過怠金が862件（うち地方競馬における戒告が3件）、騎乗停止が46件（うち地方競馬における騎乗停止が2件）。中央競馬の開催における騎乗停止処分の内訳は、進路の取り方によるものが42件（第1着から第3着までに入線した馬に係るものが22件、その他が20件） ○ 競馬開催における調教師に対する制裁は、戒告・過怠金が63件（うち地方競馬における戒告が5件）
iii) 研修会等の実施	○ 競馬の公正、安全及び円滑な実施に資するため、制裁点数制による騎手の再教育（延べ34名に対して実施）、若手騎手研修を実施

	iv) 騎手ドーピング検査の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 騎手の健康保護及び競走の安全を図るため、「騎手の薬物使用に関する検査実施要綱」に基づき、騎手に対するドーピング検査を実施 ○ 9月に薬物陽性事案が発生した際には調査を行った上で処分を決定し、再発防止を図るべく、騎手に対し注意喚起を実施
<p>(2) 薬物の不正使用事案等の未然防止及び自主警備体制の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の公正確保に資するため、引き続き禁止薬物の取締りに関する指導・啓発を実施 ○ 平成28年12月に発生した規制薬物陽性事案について、調査を行った上で裁定委員会を開催し処分を決定するとともに、再発防止策として、調教師に対する規制薬物事案の再発防止に関する説明会を実施 ○ 日本中央競馬会競馬施行規約第58条に規定される理化学検査を適正に実施し、また、当該検査機関である（公財）競走馬理化学研究所が実施する競馬の公正確保に関連する事業に協力 ○ 出走馬に禁止薬物が使用されることのないよう、厩舎関係者及び飼料納入業者に対する指導・啓発等の活動を実施 ○ 禁止薬物陽性事案が発生した際に迅速な対応をとるためには捜査機関との密接な協力関係が必要となることから、警察関係者に対して禁止薬物に関する説明会を実施 ○ 競馬の公正を確保するため、厩舎地区等の業務エリアにおける警備を万全な体制で実施 ○ お客様の安全確保及び場内外の秩序維持のため、自主警備を万全な体制で実施するとともに、関係機関と連携し、競馬の公正を阻害するおそれのある者の発見と排除を徹底 ○ 警備体制の策定にあたっては、「警備体制に関するガイドライン」に基づき、来場者の安全確保を前提としたうえで、効率的な配置を実施 	
<p>(3) 勝馬投票に関わる違法行為等の防止対策</p>		
	① ノミ行為、違法インターネット賭事等の防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノミ行為・インターネット賭事等の違法行為防止対策として、これらの勝馬投票類似行為が違法であることについて、レーシングプログラムやJRAホームページ等を活用した啓発活動を実施
	② 悪質な競馬情報提供会社による被害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬予想に関する悪質な情報を提供する会社による被害を防止するため、情報収集を継続的に実施し、特に悪質なものについては警察等への情報提供を行なうなど厳正に対処 ○ 具体的な手口・内容をJRAホームページ内へ記載するとともに、競馬場・ウインズのモニター等において注意喚起を図るビデオを放映したほか、レーシングプログラム等各種媒体にお客様向けの注意喚起文を掲載し、広報・告知活動を強化

③ 未成年者の勝馬投票券購入防止対策	○ 職員等による指導注意活動を実施するとともに、レーシングプログラム等を活用した広報・告知活動を実施
(4) 審判関係業務の改善	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 29 事業年度から、JRA ホームページにおける全周パトロールビデオの全レース公開を開始 ○ お客様の競走ルールを理解を醸成するため、失格・降着の判断基準及び審議の公表に関する解説映像を開催日に放映し、ホームページ、レーシングプログラムにも競走ルール解説を掲載。また、マスコミ関係者を対象として、降着・失格に関する新ルール運用後の状況等について説明会を実施 ○ 審議等があった場合にホームページに掲載する裁決レポートについて、よりお客様にわかりやすい説明となるよう内容を充実するとともに、個別にパトロールビデオを公開しない事象についても、お客様の関心が高く説明が必要と思われる事象については裁決レポートを作成し、お客様への更なる情報提供を実施 ○ 国際協調に関しては、IFHA「競走ルール（裁決事項）の調和に関する委員会」に出席し、諸外国の裁決担当者と意見交換を行い、日本が検討すべき課題について裁決担当者間で検討を行うとともに、ワールドベストレースホースランキング会議に出席し、2017年度の競走馬の世界ランキングを決定 ○ 地方競馬との協調に関しては、地方競馬全国協会と情報連絡会議を実施し、裁決業務に関する課題について協議・検討を実施

3. 競馬への参加促進施策の推進

項目	内訳	具体的な内容
(1) プロモーションの展開		
	① 広告プロモーションの展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中央競馬の安定的な発展を図り、絶えず世間における競馬の認知拡大やイメージ向上、興味喚起を通じて新規のお客様の獲得と定着化を促していくため、各種メディアを通じたプロモーションを実施 ○ 特に若年層を中心とした競馬未経験層への訴求をより強めた年間プロモーション「HOT HOLIDAYS！」を展開。疾走感のある楽曲（木村カエラ）を背景に、ターゲットと同世代の若い競馬未経験者（松坂桃李・柳楽優弥・高畑充希・土屋太鳳）による競馬初体験の驚きや発見をユーモラスに表現したテレビCM（シーズン編2編（春及び夏）とGI告知編14編を制作・放映）を中心に、競馬が本来持つ明るさや楽しさ、気軽さ、ワクワク感を訴求するとともに、初めての競馬体験を誘引する雰囲気醸成 ○ 中央競馬へのロイヤリティ向上と参加意欲の更なる強

		<p>化を図るため、前年に引き続き過去の名馬が一堂に会した架空のレース映像とともに競馬と人生の関わりを描いたブランドCM『夢の第11レース』を継続放映したほか、競走馬の美しさやレースの迫力、騎手の技術や駆け引きなどレースそのものに焦点を当てた新たなブランドCM『a beautiful race』を継続放映</p>
	<p>② 日本ダービー及び有馬記念を中心としたG I競走等のプロモーションの強化</p>	<p>○ 日本ダービー及び有馬記念を中心としたG I競走の認知拡大・参加促進を図り、春季・秋季のG Iシーズンに合わせ、様々なメディアを駆使し、幅広かつ集中的なプロモーションを展開。春季及び秋季を中心にテレビCMを集中的に出稿したほか、全国的な一般紙を含む新聞・雑誌広告の出稿、多くの人が行き交うターミナル駅や主要交通機関での大々的な屋外広告・交通広告の掲出を実施</p> <p>○ 施設外の街頭でのプロモーションとして、日本ダービーでは新宿駅周辺エリア等、有馬記念では首都圏主要各都市（秋葉原、新宿、渋谷、赤坂等）にてイベントを開催。その他の主要G I競走でも、レースを開催する競馬場近辺の主要都市（関東・関西・中京の主要都市）を中心にイベントを実施</p> <p>○ 有馬記念では、「有馬記念フェスティバル」として、出走馬関係者（馬主、調教師、騎手）を一同に集めた馬番号決定の公開抽選会を開催。抽選で当選した競馬ファン500名を招待し、テレビで生中継</p> <p>○ 新たにG I競走に昇格した大阪杯及びホープフルステークス（ヤングジョッキーズシリーズを含む）の認知向上と参加促進を図り、競馬場への来場誘引策と連動した広告展開（ポスター、テレビCM）や一般紙での広告、街頭でのプロモーション等を実施</p>
	<p>③ 海外競馬をフックとした競馬のプロモーション</p>	<p>○ 各主催者と契約を締結し、発売対象レース全てをグリーンチャンネルで放送するとともに、ドバイワールドカップ及び凱旋門賞については、フジテレビ系列全国ネットでの放送を実施</p> <p>○ 発売対象レースに関して、主催者等を通じて入手した出走馬データをすみやかにマスコミに情報提供することにより、お客様への正確な情報提供を実施</p> <p>○ 海外競馬に対するより一層の興味喚起や理解醸成を図るため、海外の美しい映像とともに海外競馬の魅力に触れる機会を拡大する番組を放送</p> <p>○ 海外競馬の勝馬投票券発売を効果的に告知し、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬に対する興味喚起と参加促進を図り、特に世間における関心の高いドバイワールドカップ諸競走（3月）、凱旋門賞（10月）及び香港国際競走（12月）について、一般紙・スポーツ紙・雑誌・WEBなどの媒体を活用し、様々なプロモーションを実施。特に凱旋門賞については、開催</p>

	<p>競馬場（中山・阪神）のほか、施設外の街頭でのプロモーションも実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 海外競馬の勝馬投票券は5日間で10競走を発売（発売金合計 102億5,767億9,100円）
④ 競馬未経験層向けサイト「U m a b i」の展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬の認知拡大を図るため、競馬エンターテイメントサイト「U m a b i（うまび）」について、WEB・SNSを活用した競馬未経験層へのアプローチとして年間を通じて展開 ○ GI競走のプロモーションとして、日本ダービーでは人気漫画「キングダム」とのコラボレーションサイト「キングダムダービー」、有馬記念では人気ゲーム「モンスターハンター」とのコラボレーションサイト「モンスターハンター:アリマ」を公開。また、WEBだけではなく、東京競馬場・中山競馬場等でリアルイベントを実施 ○ 競馬未経験層と接点を創出し、競馬への理解醸成を図るため、人気アニメ「けものフレンズ」、パズルゲーム「ぷよぷよ」、「新日本プロレス」、漫画「北斗の拳」など、話題性の高い人気コンテンツとのコラボレーションサイトを公開
⑤ 大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬への理解醸成やスポーツエンターテインメントとしての競馬の認知向上を図るため、大学（筑波大学・中央大学・大妻女子大学）と連携した講義を実施
(2) 広報活動の展開	
① 競馬中継の安定的な提供	<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビ（地上波・BSデジタル）・ラジオによる競馬中継は、お客様にレース映像・情報を提供する重要な役割を果たしていることから、競馬中継を安定的に提供することや番組内容の改善について、各局との協議・連携を継続的に実施
② パブリシティ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬に関する話題性を喚起するとともに、競馬に関連した紙面の充実を図るため、マスメディアへのきめ細かなパブリシティ活動を実施したことで、一般紙においても、「有馬記念における北島三郎さんの“まつり”熱唱」、「日本馬の凱旋門賞挑戦」、「新設GI大阪杯・ホープフルSの実施」など、中央競馬関連記事が多く掲載された他、ニュースやワイドショーなど放送メディアでも同様の話題が多く取り上げられ、広く世の中一般に対して「競馬」並びに「中央競馬」をアピール ○ 「優駿」など各種出版物により、的確かつ時宜を得た内容の情報提供をマスコミ及びお客様向けに実施 ○ JRA賞授賞式などの開催を通じて、競馬への理解促進やイメージ向上に貢献 ○ JRAの認知度向上や競馬に関する話題喚起を図るため、ミニ番組や特別番組などのテレビ番組を放送するとともに、GI競走の参加促進を図るためバラエティ番

	組・スポーツ番組・情報番組等でパブリシティを実施
(3) 現金発売を行う施設の活性化	
① 多様なお客様層に応じたアプローチ	<p>○ 既存のお客様により競馬を楽しみいただくとともに競馬に馴染みのない方々にもご参加いただけるよう、多彩なお客様サービスイベント等、お客様のニーズを踏まえた以下の各種施策を実施</p> <p>◇ G I開催週を中心に、競馬キャスターやタレント等を起用し、競馬場及びウインズにおいて各種トークショーイベントやファミリー向けキャラクターショー、馬とのふれあいイベント等を実施</p> <p>◇ 夏季競馬における参加促進 全国の競馬場・ウインズにおいて「JRAサマーシリーズキャンペーン」として、「シリーズ優勝騎手予想」と「サマー2000」「サマースプリント」「サマーマイル」の優勝馬予想も実施（応募総数 約124,000名）。また、昨年に引き続き札幌競馬場で開催された「ワールドオールスタージョッキーズ」の「優勝騎手」、「優勝チーム」の予想をWキャンペーンとして実施（応募総数 約62,000名）</p> <p>◇ 8月20日（日）を「ウインズ・デー」として、全国のウインズ・エクセル・パークウインズにおいて、日頃からご愛顧いただいているお客様への感謝イベントを同日に統一感を持って実施（当日のウインズ・エクセルの来場者数前年比は112.3%、発売金前年比は100.4%）。具体的なイベント内容は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRAオリジナルハンカチの先着プレゼント（全国総計16万名分） ・エクセル席の半額キャンペーン（パークウインズの指定席は除く） ・それぞれの事業所における抽選会やキャラクターショー等のお楽しみイベント ・食堂・売店の一部商品の割引キャンペーン <p>◇ 女性のお客様の獲得と定着化 全競馬場・全競馬開催日において「UMAJOスポット」を運営したほか、外部施策として人気ファッション誌とのコラボレーションイベントなども実施</p> <p>◇ 「お年賀タオル」（1月5日、22万枚）、「2018 JRAオリジナルカレンダー」（12月10日、40.7万部）を配布</p> <p>◇ 東京競馬場・中山競馬場において、顧客化を目的とした体系的な講義内容の「実践型競馬教室（REXS）」を展開し、競馬未経験のお客様へ積極的に競馬の魅力を訴求（計245回、延参加人員8,112名）</p> <p>◇ 全国の競馬場及び一部ウインズにおいて、競馬初心者を対象とした「ビギナーズセミナー」を実施（延実施</p>

		<p>日数314日、延参加人員26,080名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ JRAの公式プログラムとして、「レーシングプログラム」を年間通じて安定的に発行し、お客様へ有益と思われる各種情報を提供。特に注目度の高いレースである日本ダービーや有馬記念当日には特別カラー版を配布。また、海外競馬の発売、ヤングジョッキーズシリーズ開催に合わせて、カラーの特別記事を掲載 ◇ 宝塚記念及び有馬記念において「ファン投票」を実施。有効投票件数はそれぞれ122,394件(前年比105.6%)、156,053件(同89.8%)
	<p>② 来場のきっかけ作り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有料駐車場がある9競馬場において、駐車場あいのりキャンペーンを実施するとともに、函館競馬場・福島競馬場・小倉競馬場においてパークウインズ時のイベントに絡めて駐車場料金の割引や無料券配布等を行い、グループによる来場促進及び来場車両の抑制施策を実施 ○ 来賓室等を活用し、富裕層等の新規のお客様を対象とした競馬場への誘引や競馬講座を実施(実施回数5回、参加人数156名) ○ 開催競馬場への来場と定着化を図るため、全競馬場・全競馬開催日で「競馬場来場ポイントキャンペーン」を実施 ○ 全国の競馬場において、競走名にちなんだ各地域の物産展や競馬場所在地域の名産品店の出店、食堂・売店利用促進クーポンの配布など様々な「食のイベント」を開催 ○ 新規のお客様の競馬への理解醸成を図るため、年間を通じて「ターフィー&ハローキティ」を活用した各種施策を実施。競馬に馴染みの無い地域やお祭り会場などを中心にグリーンディングイベントを実施(計74回)。オリジナルアイテムも活用しながら、WEBにおいても年間を通じて専用サイト「TURFY LAND」を運用 ○ 競馬場入場料を無料とする「フリーパスの日」を10競馬場で計16日間設定(内6日は女性対象のフリーパスの日) ○ ウインズにおいて、地元行政とのコラボレーション(錦糸町、横浜、新白河等)、地元企業とのコラボレーション(広島等)、地元警察署とのコラボレーション(姫路)などを通じて、ウインズの認知度を向上
	<p>(4) 訪日外国人の増加等への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本競馬の認知度を高めるため、GI競走を中心としたレース映像を世界8カ国に配信するとともに、出馬表、過去成績等のデータを提供。また、JRA外国語ホームページ(英・仏・中・韓)において、GI競走を中心とした競馬に関する情報やニュース等を掲載するとともに、訪日外国人が競馬場等へ来場し、競馬に参加する際に障壁となることの無いよう分かりやすい内容を掲載 ○ 訪日外国人に日本の競馬を認知してもらうため、日本

	<p>を紹介する英語、フランス語、韓国語、中国語、タイ語等のウェブサイトや影響力のあるブログ等に競馬体験動画や体験記事を掲載。また、秋季には訪日外国人が日本国内で利用するWi-Fiサービスを活用し、新宿・渋谷エリア内においてスマートフォン向けプッシュ通知による中央競馬の告知を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ G1競走が施行されるフランス（5・6月）及びイギリス（7月）の競馬場において、現地主催者、大使館及び在外日本企業等と協力し、日本食や日本文化の紹介とともに日本競馬のプロモーション「Saddle up for Japan」を実施 ○ 外国人向けの印刷物やツール等を作成したほか、昨年11事業所で実施したタブレット案内通訳サービスを18事業所に拡大し、受入体制を整備。また、第4・5回東京競馬では東京競馬場内に英語・中国語・日本語を話すスタッフを配置した外国語インフォメーションを開設し、外国人の来場者がより快適に競馬を楽しめる環境を提供
<p>(5) 払戻率の設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の払戻率（単勝 80%、複勝 80%、枠連 77.5%、馬連 77.5%、ワイド 77.5%、馬単 75%、3連複 75%、3連単 72.5%、WIN5 70%）設定以降のお客様の購買動向等を分析し、現在の率の継続を決定 ○ 弾力的な払戻率の設定の更なる活用策として、第5回中山競馬第9日及び第5回阪神競馬第9日において、全ての競走、全ての投票法を対象に、払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施
<p>(6) お客様への情報提供の充実</p>	
<p>① レース映像の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ よりわかりやすく迫力ある映像を提供することにより、お客様サービスを維持向上するため、G1競走当日を中心とした特定の日において、スーパースローカメラ、ヴァーチャルカメラ、車載カメラ等の特殊カメラを増設 ○ お客様に対し、より鮮明で迫力あるレース映像提供の維持向上を図るため、映像ディスプレイ装置の更新を実施（中山競馬場、阪神競馬場（制御機器のみ）、ウインズ道頓堀、ウインズ神戸、ウインズ高松）
<p>② JRAホームページの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRAホームページには、1年間で約54.5億ページビュー（延べアクセス数。以下「PV」）のアクセス。その内訳はパソコン版が約33.4億PV、スマートフォン版（以下「スマホ版」）が約15.4億PV、携帯版が約5.7億PV。1日あたりの最大アクセス数は有馬記念当日の約4,316万PV（パソコン版：2,686万PV、スマホ版：約1,257万PV、携帯版：373万PV）
<p>i) 競馬情報サービスの充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宝塚記念及び有馬記念について、予想の参考となる情報を掲載した特設サイトを開設するとともに、ヤングジ

	<p>ヨッキーズシリーズファイナルラウンドについて、インタビュー映像を中心とした特設サイトを公開</p> <p>○ 発売を行った海外競馬10レースについて、レースの概要、前哨戦レース映像、出走馬情報及び現地情報など、お客様の予想に役立つコンテンツを掲載。また併せて海外競馬のプロモーションサイトを開設。海外競馬の魅力紹介及びネット投票加入案内ページ等の海外馬券発売の話題を醸成するようなコンテンツを提供</p>
ii) 機能改善及び新規項目の追加	<p>○ パソコン版出馬表及びレース結果ページの横幅を広げ、情報量の増加及び決勝審判写真の拡大を実施</p> <p>○ 出馬表等の一部コンテンツを新たにウェブアクセシビリティ対応を実施</p>
iii) ユーザビリティの向上	<p>○ お客様からの要望が多かったレース映像の高画質化を12月から実施</p> <p>○ 平成28年のJRAニュース、競馬場ページに続き、ウインズ及びトレーニング・センターページについてもパソコン及びスマートフォンどちらのデバイスでも外観や操作方法が最適化するレスポンス対応を実施</p>
iv) SNS（ソーシャルネットワークサービス）を利用した展開	<p>○ 競馬の話題喚起及び拡散を目的に、JRA公式Facebookページで競馬やイベント等に関する話題の投稿を実施 (平成29年末の「いいね!」数：約19万)</p> <p>○ YouTubeのJRAチャンネルにおいて、レース映像やテレビCM等の様々なジャンルの動画を掲載 (平成29年の動画再生回数 約1,739万回)</p>

4. 販売促進施策の推進

項目	内訳	具体的な内容
(1) インターネット投票会員の加入促進及び離脱防止		
	① 提携銀行の拡大等による加入促進	<p>○ JRAのみならず地方競馬、海外競馬のインターネット投票を安定的に実施し、また、「インターネット」にて購入できること等を広報、宣伝することで即PATを中心にインターネット投票会員への加入を促進</p> <p>○ 即PAT会員及びJRAダイレクト会員の新規登録を随時実施 (即PAT新規登録会員数451,745名) (JRAダイレクト新規登録会員数47,901名)</p> <p>○ 即PATの指定金融機関として7月28日から「りそな銀行」・「埼玉りそな銀行」を追加 (新規登録会員数：りそな銀行9,075名、埼玉りそな銀行4,599名)</p> <p>○ A-PATの新規会員募集を2か月ごとに年間6回</p>

	<p>実施</p> <p>(新規登録会員数4, 821名)</p>
<p>② サポート体制の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電話・インターネット投票に関する様々な問合せに的確にお答えするため、電話やJRAホームページを用いた案内を年間を通じて安定的に実施 ○ 対面式の「電話・インターネット投票サポートデスク」をウインズ後樂園及びウインズ梅田においては通年で、また、阪神競馬場においては自場開催限定で設置したほか、臨時サポートデスクを札幌競馬場、福島競馬場、ウインズ小郡に設置し、既存会員のサポートのみならず、即PAT会員を中心とした新規会員登録受付も併せて実施 ○ インターネット投票の問合せに対する受付体制を強化するため、問合せ対応に必要な情報を開催毎に事業所へ提供
<p>③ インターネット投票会員向けサービスの充実</p>	<p>【各種キャンペーン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 発売金及び参加率向上策として、電話・インターネット投票会員向けキャンペーンを以下のとおり実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 春の3歳重賞&大阪杯デー馬連キャンペーン（3～5月） ・ Spring GIキャンペーン（5～6月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2017-ヒーロー列伝-（6～7月） ・ 即PAT新規加入キャンペーン（7～9月） ・ Club JRA-Net 新規登録・利用促進キャンペーン（9～10月） ・ 世界を駆け抜ける！凱旋門賞キャンペーン（10月） ・ オッズ・マスターズ・グランプリ2017 - 競馬場の達人 -（10～12月） ・ 有馬記念WINNERS COLLECTIONプレゼントキャンペーン（12月） ・ Club JRA-Netキャンペーン（通年） ○ オッズ・マスターズ・グランプリを除く全てのキャンペーンを「Club JRA-Net」からのエントリーとして、「Club JRA-Net」への加入を促進 <p>【会員向けの情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 電話・インターネット投票会員専用サイト「Club A-PAT」を「Club JRA-Net」として名称を変更し、併せて新規登録キャンペーンを実施することで「Club JRA-Net」の登録者増加を促進 ○ 年間を通してClub JRA-Net会員向けのメール（Club JRA-Netメール）を送信

	<p>(年間送信回数390回)し、各種情報を提供 (平成29年末会員数約176万名)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 12月に電話・インターネット投票会員(約117万名)に対し、「JRAからのお知らせ」「レーシングスケジュール」等を送付し、電話・インターネット投票及びJRAにおける各種サービス等についての案内を実施
④ 電話・インターネット投票の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ パソコン版インターネット投票画面をリニューアルし、新機能として「マークカード投票」「予想印投票」を追加 ○ 従来から実施している「新ブラウザ対応」「OSバージョンアップ対応」等を行い、既存投票環境の安定化を実施
(2) 販売ネットワークの拡充策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月15日からJ-PLACE網走(帯広市)及び6月24日からJ-PLACE和歌山(兵庫県競馬組合)での発売を開始し、地方競馬施設を活用した委託場外は前年末比2か所増となる50ヶ所まで拡大 ○ ライトウインズ阿見に続く小規模発売店舗として、平成29年8月23日にライトウインズりんくうタウン設置の農林水産大臣承認を得て、平成30年秋頃の利用開始を目標に準備 ○ 少人数の職員での場外発売所運用を目指し、業務運営の効率化を図るため、ライトウインズ阿見において、「場外運営総合管理業務」を平成30年夏頃の導入を目標に準備。これにより、従来JRAが実施していた場外発売所の運営の一部を、JRA関係団体に委託 ○ 小規模発売店舗や従来の施設形態に捉われない場外発売施設の出店を目指し、地方自治体や商業施設所有者等との意見交換や現地調査を実施
(3) 払戻金への上乗せ施策の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 払戻金を通じたお客様への直接的な還元、中央競馬への参加促進と満足度の向上を図るため、特別振興資金を活用した「払戻金への上乗せ策」を実施
① 1号給付金(JRAプレミアム)	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRAプレミアムについては、馬連を対象とした「金杯馬連(1/5)」、「春の3歳重賞馬連(3/4～5/21)」、「大阪杯デー馬連(4月2日の全レース)」、「ダービーウィーク馬連(5月27日・28日の全レース)」、「有馬記念ウィーク馬連(12月23日・24日の全レース)」、単勝を対象とした「夏の2歳単勝(6月3日～9月3日)」、「秋の2歳単勝(9月9日～12月17日・12月28日)」として、それぞれ対象投票法の売上の5%相当額の上乗せを過去最多となる計749競走で実施 (上乗せ総額 3,125,295,820円)

<p>② 2号給付金（JRAプラス10）</p>	<p>○ 通常の払戻金が100円元返しとなる場合に10円を上乗せして110円で払戻する「JRAプラス10」を、海外競馬を含む「全ての競走の全ての投票法」に対して実施 （658件 上乗せ総額 3,016,494,460円）</p>
<p>(4) その他販売促進施策の展開</p>	<p>【クイックピック投票・ブース販売の実施】</p> <p>○ コンピュータが馬番号・組番号を選択する「クイックピック投票」を全国の競馬場・ウインズにて、全開催日に実施。また、「クイックピック投票」を活用し、おみくじ感覚でお客様に馬券を購入していただく「ブース販売」を計31の事業所で延べ229開催日実施し、新規・ライトファン層を多く含む延べ27万名を超えるお客様へ勝馬投票の体験を提供</p> <p>【JRAパーティーキャンペーンの実施】</p> <p>○ 結婚式や2次会向けに馬券をお届けする「JRAウェディング」を春季と秋季に実施 （申込み件数48件、参加人数延べ4,992名）</p> <p>○ 結婚相談業者等と連携したお届けについては、東京競馬場来賓室を会場とした婚活パーティーを12回実施したほか、街中で開催されているパーティー会場にも合計31回（延べ374名）に亘り馬券お届けを実施</p>
<p>(5) 観戦環境等の向上</p>	<p>○ 競馬場・ウインズに来場されるお客様に、良質できめ細かいサービスを提供するため、職員に対する各種研修、従事員へのマナーアップキャンペーン等の実施により、案内・接客体制を向上</p> <p>○ 分煙化については、競馬場及びウインズに来場されるお客様の健康及び安全確保の観点から、引き続き推進。具体的には、東京競馬場において日吉が丘・馬場内の一部エリアを全面禁煙、中京競馬場において屋外喫煙エリアを閉鎖・縮小するなどの見直し実施。また、分煙化の拡大に伴い、お客様向けの分煙告知ビデオをターフビジョン・ITVにて放映する等、広報・告知活動を実施</p> <p>○ 快適な観戦環境の整備に向けて、競馬場及びウインズにおける施設内の環境美化を推進するため、クリーンキャンペーンを実施</p> <p>○ 競馬場における滞留環境の改善を図るため、混雑が著しい大レース当日の椅子等の借り上げや華やかな場内装飾を推進</p> <p>○ 大レース当日の「ビギナーズカウンター」設置等による新規に参加されるお客様への案内体制を拡充（実施日数延べ63日、参加人員延べ9,446名）</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウインズにおいて、より多くのお客様の着席を推進するため、一部の多連の椅子からシングル椅子への更新を順次実施 ○ 各ウインズのエクセルシートの利用を促進するため、「有料席等利用料規則」に基づく特別料金の設定やイベント催事での景品提供を積極的に展開 ○ 競馬場・ウインズ等に来場するお客様の購買動向等を調査するとともに、お客様のニーズを把握するための「顧客満足度調査」を実施して各種施策に反映
(6) 現金投票の利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の投票端末機よりタッチパネル投票機能などを搭載し、お客様への利便性を向上させた新しい投票端末機の8次投票端末機を9月から東京競馬場に導入し、平成30年からその他の競馬場・ウインズ等にて順次導入

5. 馬事振興

項目	内訳	具体的な内容
(1) 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会への協力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の馬術競技会場に決定されているJRA馬事公苑について、行政機関や(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会等と調整のうえ、建築関連法令等の諸手続きに則り、1月から解体撤去工事、2月から土木工事、10月からは新築工事に着手するなど、全面的な整備工事を実施
(2) 乗馬の普及		<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所において、一般市民やスポーツ少年団を対象とする乗馬指導、初心者を対象とする乗馬教室を実施 ○ 乗馬に取り組む子供たちの目標となる大会として、全国ポニー競馬選手権「第9回ジョッキーベイビーズ」を実施(全国7地区の代表決定戦で8名の選手を選出し、決勝大会を10月8日に東京競馬場で実施) ○ 馬と直接触れ合う機会を拡充するため、全国の事業所において、「馬に親しむ日」をはじめとする馬事イベントを開催 ○ 各競馬場において、「体験乗馬・馬車」「誘導馬によるお出迎え・お見送り」「ポニーとのふれあい」等を実施 ○ 引退競走馬に関する諸課題への取組みとして、2月から競馬サークル関係者による準備委員会を4回開催し、12月には「引退競走馬に関する検討委員会」を発足 ○ 馬事公苑(宇都宮)等で引退競走馬を乗用馬等へ転用するための調教(リトレーニング)方法の研究を実施 ○ 障害者乗馬やホースセラピーを実施する各団体の活動を支援 ○ 乗馬人口の拡大を図るため、(公社)全国乗馬倶楽部振興協会、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会が実施する乗馬普及事業に対して助成
(3) 馬術の振興		<ul style="list-style-type: none"> ○ 本会主催大会として、内国産馬限定の「ジャパンプリ

	<p>ーディングホースショー」を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 馬事公苑（世田谷）が使用できないことに伴い、「関東高等学校馬術選手権大会」や「日本乗馬少年団連盟馬術選手権大会」等多くの競技会に東京競馬場を貸与するとともに、大会主催者や大学等馬術部の費用負担増に対する補助を実施 ○ 本会事業所周辺の高校や大学の馬術部及び乗馬クラブに対して、技術指導を実施 ○ 馬を取扱う担当職員の技術向上を目的として、馬事公苑の馬術系総合職員による乗馬技術や競走馬の再調教技術に関する各種講習会を実施 ○ 競馬関係者の馬への理解や取扱技術の向上を図るため、馬術系総合職員による講習会を両トレーニング・センターで実施 ○ 日本の馬術の振興を図るため、(公社)日本馬術連盟が実施する馬術振興事業に対して助成
(4) 馬事文化の発展への寄与	
<p>① 「馬の博物館」及び「競馬博物館」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬の博物館では、馬と人との交流によって生まれた様々な文物を常設展示し、また、馬の博物館40周年記念展として「所蔵名品展 馬の美術150選—山口晃『厩圖2016』完成披露—」、春季特別展として「安野光雅の世界—歴史絵本に描かれた“名馬面”—」、企画展として「馬をめぐる武将たち」などを実施 ○ 競馬博物館では、特別展として「うまたび umatabi～競馬場への招待～」、秋季企画展として「前略ディープリンパクト様～関係者からDEEPへの手紙～」、テーマ展として「ダートの熱き戦い～ダートグレード導入から20年～」をそれぞれ実施。また、「馬の学び舎 ミュージアム・ホール」において競馬・馬事文化紹介映像として「馬の祭りと在来馬にまつわる映像作品」及び「アニメ馬物語」を上映するとともに、特別展と連動したトークショー等のイベントを開催 ○ 「Gate J.」（新橋・梅田）では、「GIレース展望」「草野仁ゲートJプラス（グリーンチャンネル公開収録）」などを実施
<p>② JRA賞馬事文化賞</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成29年度の選考にあたっては、書籍・映像・展覧会をはじめ幅広い分野から馬事文化に関わる作品等、約340点を対象に候補作品を絞り、80種を超える馬種の進化の歴史をたどるとともに、人類の歴史や発展に最も大きな影響を与えた動物、馬がいかに人間社会において重要な役割を果たしてきたかを、美しい写真を交えながら紐解いていく写真集のような図鑑「世界で一番美しい馬の図鑑」（著者：タムシン・ピッケラル、写真：アストリッド・ハリソン、翻訳：川岸史、出版：株式会社エクスナレッジ）を選出
<p>③ 馬事伝統文化の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 馬事文化の発展に寄与するため、宮崎育成牧場等にお

	保存	いて、各地に伝承されている伝統馬事芸能を披露 ○ 日本在来馬の保存を目的として、(公社)日本馬事協会が行う日本在来馬8種の保存活用推進事業に対して助成
--	----	--

6. 社会貢献活動とCSR

項目	内訳	具体的な内容
(1) 地域社会への貢献		
	① 防災対策の推進など地域社会との連携・協調	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関係法令に則り、事業所毎に各防災計画・マニュアルの整備及び職員他関係者への周知を徹底し、関係者の防災意識の向上を促進 ○ 大規模災害発生時の対策として、競馬場においては有事に備えて帰宅困難となった来場者及び周辺住民の避難を想定し、防災備蓄品を適切に配備・管理。また、都市部ウインズにおいても、来場者が帰宅困難となった場合を想定し、配備している防災備蓄品を適切に配備・管理 ○ 「くらやみ祭り(5月3日大国魂神社)」や「馬車道まつり(11月3日関内・伊勢佐木町エリア)」等、地域の祭りや本部・事業所周辺の団体が主催する多くの催しに、人馬を派遣するなどの協力を実施 ○ 事業所周辺の幼稚園や保育園において、ポニーとのふれあい活動を展開するなど、「馬」を活用した地域密着型の協力を実施
	② 事業所周辺の環境保全、整備に関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競馬開催日の交通対策として、周辺環境に配慮し来場車両を抑制するため、お客様に公共交通機関の利用の呼びかけを実施 ○ 周辺道路の混雑及び渋滞の要因ともなる違法駐車を排除するため、警備ポストを配置する等の対策を実施 ○ 競馬場・ウインズ等が所在する合計38の地方自治体に対して、平成29事業年度は、道路・交通安全施設整備事業、教育・社会福祉施設整備事業、公園整備事業等の合計338事業に、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施
	③ 次世代育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 獣医系・畜産系学生を対象とした研修として、競走馬総合研究所における「馬臨床サマースクール」や日高育成牧場における「サマーセミナー」「スプリングキャンプ」を実施 ○ 幼少期から馬への理解を深め、生き物を通じた豊かな人間性の形成に寄与するよう、事業所から実馬を派遣し「小学校出張授業」を実施するとともに、キッザニア甲子園に「ホースパーク」パビリオンを年間を通じて出展。また、栗東トレーニング・センターの施設や設備等を活用した1泊2日の本格的な職業体験プランとなる「アウトオブキッザニア in 栗東」を実施
	④ 畜産振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3月に農林水産大臣の認可を得て、交付金を交付(別

		表12)
(2) 環境への取組み		
① リサイクルに関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成20事業年度より排出物対策の柱として取り組んでいる「RAP90」(リサイクル・アクション・プログラム・90:排出物のリサイクル率を90%以上とすることを目標とした取組み)に基づき、排出物の個別項目毎のリサイクル率の向上を目指した取組みを実施 ○ なかでも競馬開催に関する排出物について、平成27事業年度よりリサイクル率の目標を50%に設定 ○ この結果、平成29事業年度のリサイクル率は、全体:93.5%(前年92.9%)、競馬開催に関する排出物:54.6%(前年53.8%) ○ 栗東トレーニング・センターの事業運営の安定化及び環境対応に資する目的で、使用済敷料の新たな処理法として「バイオマス発電システム」を導入することとし、平成28年1月に着工、平成31年6月に竣工予定 	
② 温室効果ガス排出対策に関する取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各事業所のエネルギー使用量を基にCO2の排出量を算定し把握するとともに、その排出抑制を目的に策定した「総量削減」と「原単位削減」の複合目標を達成するために、全事業所において省エネルギー推進体制を構築 ○ 「温室効果ガス排出抑制実施計画【第3期(平成29～32年)】」を策定 ○ 電力需要が高い夏季及び冬季においては、別途「省エネ対策」を作成し、関係団体を含む全事業所において重点的に取組みを実施 ○ 平成29事業年度のCO2総排出量は97,515 t-CO2/年(対前年比98.4%)、原単位は0.0234 kl/m²(対前年比100.4%) ○ 競馬学校、東京競馬場及び中山競馬場において、温室効果ガス排出抑制効果が高く、電力の効率化に資する「太陽光発電システム」を運用中 	
(3) 情報セキュリティの確保	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報セキュリティ委員会を開催し(2月、12月)、情報セキュリティの現状とセキュリティ体制の整備の現状及び今後の方針について確認 ○ 情報セキュリティ点検として、ペネトレーションテスト及びマネジメント監査(それぞれ7月～11月)を実施 ○ 情報セキュリティに関する知識・理解の定着のために、新規採用職員向け講習(4月)、役職員による自己点検(10月～11月)及びeラーニングを利用した全職員向け研修(6月)を実施 ○ 標的型攻撃メールによる情報漏えいリスクを低減することを目的として、全職員向け訓練(9月、10月)を実施 ○ 競馬開催に関連する各システムにおいて、ファイアウォール(FW)や不正侵入防御システム(IPS)等を 	

	適切に運用し、不正アクセスや情報漏洩等の起こらないセキュリティ体制を維持（通年）
(4) 法令遵守と透明性の確保	
① コンプライアンスに関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ コンプライアンス体制の一層の充実を図るため、役職員が日々守るべき基本的な行動基準を具体化した「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努め、その実践を推進 ○ 役職員に対し継続的にコンプライアンスに関する研修を実施するとともに、内部監査・アンケート等によりコンプライアンス体制の現況について確認、点検し、適宜必要な見直しを実施
② 個人情報・法人文書等の管理に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種関係法令・規程等に基づき、個人情報及び法人文書等の厳正な保護・管理を実施するとともに、各種研修・会議において啓発活動を実施、またコンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化 ○ 「公文書管理法」に基づき、東日本大震災関連の保有法人文書を歴史的公文書として国立公文書館に移管
③ 情報公開に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」に基づく開示請求は、127件 ○ 「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づく開示請求はなし ○ 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の規定に基づき、JRAの経営内容等が記載された文書を、引き続き、JRAホームページ等を活用して公開
④ 契約・入札等に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ○ 契約・入札の適正化に向けた不断の点検を行い、契約の一層の競争性・公正性の向上を推進 ○ 契約手続の透明性を確保するため、工事の発注、物品の製造・購入及び役務に関する情報等について、JRAホームページに随時公開
(5) 国際協調・国際協力を通じた競馬発展への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ アジア競馬連盟（ARF）及び国際競馬統括機関連盟（IFHA）執行協議会の常任理事国として、国際会議や海外主要競走視察等の場において、各国代表者との意見交換及び交流を実施 ○ 10月にパリで開催されたIFHA年次総会に合わせて開催された各諮問委員会に本会代表者を参画させ、国際競馬の発展、国際協調の維持並びに日本競馬の国際的地位の向上に寄与 ○ 中国との協調・競馬発展への取組みに関して、中国本土の馬産業事情の調査を実施するとともに、中国の馬産業関係者等の日本招聘や日本の競馬関連技術者の派遣による指導を実施し、日中間の人材交流を推進 ○ 日本の競馬産業全般を学習するためのARF定期研修（6月）に6カ国6名が参加。また、競馬に関する専門的技能等を習得するためのARF専門研修（8月）に3カ国3名が参加

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内生産馬の海外への販路拡大の支援について、日本の生産者団体等と連携し、人材・技術交流を通じて、日本産馬輸出体制づくりを支援（その結果、昨年に引き続き中国本土へ日本産馬を輸出） ○ 諸外国との交流の一環として、アメリカ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施 ○ アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド、フィリピン及びマカオとの交換競走）を7月に中京競馬場において実施 ○ 日本と諸外国との外交関係周年事業を記念し、アイルランドトロフィーを、日本・アイルランド外交関係樹立60周年記念アイルランドトロフィー府中牝馬ステークス（GⅡ）として実施したほか、日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念霜月ステークスを実施
(6) ギャンブル障害への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○ JRAホームページ、ポスター、CM、新聞広告、レーシングプログラム、及び勝馬投票券発売機等における注意喚起文の掲載やリーフレット等における知識の普及啓発を実施 ○ 専門的知識を有する精神科医を講師として役職員向け研修を実施 ○ JRAインフォメーションデスクにおいてお客様への相談対応を実施 ○ お客様及びそのご家族からの申請によりネット投票の利用を停止する制度を導入（本人申請：10月から実施、家族申請：12月から実施） ○ お客様からの申請により競馬場・ウインズ来場時に退場を促すお声掛けをする制度を実施（7月） ○ 競馬場・ウインズに設置している全てのATMにおいてクレジットカードによるキャッシング機能を停止（12月）

7. 施設及びコンピュータ・システムの整備

項目	内訳	具体的な内容
(1) お客様関連施設の改善及び整備		
	① 札幌競馬場諸施設整備工事	○ 札幌競馬場の老朽化が進んでいる一部厩舎及びパトロールタワーの改築工事と合わせて、ファミリーを中心に幅広い層のお客様に来場促進を図るため、馬場内の整備工事を一体的に発注し、平成29年9月に着工、平成30年6月に竣工予定
	② 中山競馬場スタンドリフレッシュ（第1期）工事	○ スタンドを継続的に使用するための設備のリフレッシュ及びお客様サービスの向上に資するため、平成29年12月に着工、平成31年3月に竣工予定
	③ ウインズ館内リフ	○ 施設を継続的に使用するため、及びお客様サービスの

	<p>レッシュ及び美化工事</p>	<p>向上に資するため、館内リフレッシュ及び美化工事を実施（ウインズ汐留：10月竣工、ウインズ銀座：平成30年11月竣工予定、ウインズ渋谷：平成30年10月竣工予定）</p>
	<p>④ 中型映像の更新</p>	<p>○ お客様に対し、より鮮明で迫力あるレース映像提供の維持向上を図るため、映像でディスプレイ装置を更新（ウインズ道頓堀、ウインズ高松、ウインズ神戸B館）</p>
	<p>⑤ その他</p>	<p>○ お客様の利便性向上を図るため、お客様用トイレ及びお客様用エリアの整備、改修等を実施</p>
<p>(2) 競走関連施設の改善及び整備</p>		
	<p>① 美浦トレーニング・センター厩舎改築工事</p>	<p>○ 美浦トレーニング・センターは昭和53年に開場し、他の施設と同様、厩舎についても老朽化が進んでいるため、先行して設置したモデル厩舎の検証等を踏まえ改築工事を行なうこととし、第1期工事を平成27年11月に着工、平成29年4月に竣工</p>
	<p>② 栗東トレーニング・センター調教スタンド改築工事</p>	<p>○ 調教スタンドは、昭和44年に建築されたものであり、老朽化が著しく、耐震構造上も現行の基準を満たしていないことから、安全確保のため改築を行うこととし、平成27年11月に着工、平成29年10月に竣工</p>
<p>(3) システムの更新及び全体最適化</p>	<p>○ 各システムの信頼性、安定性及び効率性の向上を図るために、以下のとおりシステムの更新等を行うとともに、円滑なデータ連携の実現等に向けて全体最適化を推進</p> <p>i) 平成29年に更新等を行い運用開始したシステム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催従事員給与計算システム（EMS） ・競走馬情報管理システム（JARIS） ・会計システム（OACS） ・固定資産管理システム（KSK） ・JRAホームページシステム ・IPATシステム ・DIANAシステムクライアント ・レース指定式テレホンシステム ・第8次現金投票システム ・即PATシステム ・地方競馬発売システム ・投票照会システム ・データウェアハウスシステム ・職員給与・人事管理システム（PMSⅢ） ・海外DIANAシステム ・インフォメーションシステム ・統合データベースシステム ・Leap機能 ・競走馬情報管理システム（JARIS）クライアント ・トータリゼータセンタネットワーク <p>ii) 平成29年に更新開発に着手したシステム</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> ・開催従事員給与計算システム（EMS） ・会計システム（OACS）・固定資産管理システム（KSK） ・番組企画システム（JARIS-R） ・映像伝送システム ・即PATシステム ・トータリゼータセンタ ・ネット投票システム ・統合データベースシステム ・坂路調教タイム自動計測システム ・現金端末 ・競走馬情報管理システム（JARIS） ・マイナンバー専用端末
--	---

8. 事業構造の改善に関する取組み

項目	内訳	具体的な内容
(1)	経費負担の抑制	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウインズの効率的なフロア運用（一部の時期限定または年間閉鎖）について、混雑度等を元に検証を行い、13ウインズでフロア等の縮減を実施 ○ ウインズ横浜及びウインズ新横浜において、諸管理業務の内製化等による効率化を実施
(2)	経営資源の有効活用	
	① 資産の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ ジャパンカップにおけるロンジン社とのパートナーシップを継続し、お客様への還元とともに、同社のブランドイメージや競馬をイメージした広告展開でのジャパンカップのPRにより、国際的なスポーツエンターテインメントとしての雰囲気醸成
	② インターネット投票における地方競馬の受託発売の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ A-PAT会員及び即PAT会員向けに、インターネット投票による地方競馬の受託発売を実施（発売日数244日、発売金約786億円）
	③ 人材教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員に対し、個々の更なる能力向上や組織の活性化のため、人材育成における中長期的目的達成のための階層別研修、部門・分野によって必要となる高度な専門的知識習得のための専門研修及び業務遂行上で求められる一般的で普遍的な知識・資格習得の機会付与を目的とした一般研修を実施 ○ 全国の競馬場及びウインズにおいて、職員、開催従事員及び関係事業者のスタッフを対象としたマナーアップキャンペーン等を実施 ○ 関連団体の職員を対象とした研修等を実施し、JRAについての知識と理解を深めるとともに、JRAグループの一員としての意識を向上

<別表目次>

- 別表 1 (開催競馬場別開催実績) P 31
- 別表 2 (平成 2 9 事業年度の各種実績) P 32
- 別表 3 (開催回数の推移) P 33
- 別表 4 (開催日数及び競走回数の推移) P 33
- 別表 5 (出走頭数の推移) P 33
- 別表 6 (お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移) P 34
- 別表 7 (発売金の推移) P 34
- 別表 8 (電話・インターネット投票会員数の推移) P 35
- 別表 9 (投票法毎の発売金の構成比の推移) P 35
- 別表 1 0 (馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移) P 36
- 別表 1 1 (国際競走等の状況) P 37
- 別表 1 2 (特別振興事業について) P 38
- 別表 1 3 (J R A 賞 受賞馬及び受賞者) P 45

1. 開催競馬場別開催実績

	回数	日数	競走回数	出走延頭数	入場人員	発売金額
札幌	2回	12日	144競走	1,843頭	205,270名	75,905,216,500円
函館	2	12	144	1,771	90,468	68,751,711,200
福島	3	20	240	3,480	230,468	122,891,946,900
新潟	3	26	312	4,593	338,500	169,437,602,700
中山	5	41	492	7,288	1,079,140	508,299,140,400
東京	5	45	539	7,910	1,759,579	593,090,164,100
中京	4	26	312	4,689	385,641	195,992,414,500
京都	5	44	528	7,184	1,005,263	458,060,038,800
阪神	5	42	504	6,897	846,836	447,570,004,400
小倉	2	20	240	3,493	234,073	118,736,944,600
計	36	288	3,455	49,148	6,175,238	2,758,735,184,100

2. 競走成績

サラブレッド系	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計			
2歳	576回	46回	14回	636回	8,334頭	3,100頭	13.1頭
3歳以上	1,840	739	114	2,693	39,251	7,931	14.6
障害	108	8	10	126	1,563	497	12.4
合計	2,524	793	138	3,455	49,148	※11,265	14.2

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、263頭

◎ 平成 29 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,455 競走（前年実績 3,454 競走）
③出走延頭数	49,148 頭（前年実績 49,910 頭）
④勝馬投票券の発売金	2 兆 7,689 億 9,286 万 3,200 円（対前年比 103.0%）
⑤開催競馬場の入場人員	617 万 5,238 名（対前年比 98.0%）※ ¹
⑥お客様総数※ ²	1 億 7,950 万 7,469 名（対前年比 104.4%）

※¹うち女性入場人員は 103 万 6,041 名（対前年比 100.3%）。全体比 16.8%。

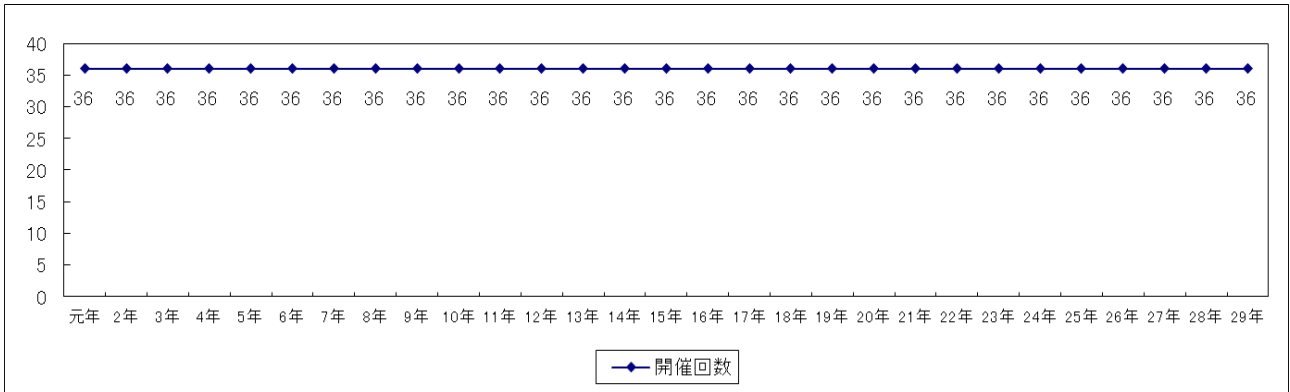
※²開催競馬場の入場人員にパークウインズ(633 万 2,647 名)、場外発売所(4,606 万 7,799 名)、電話・インターネット投票(1 億 2,093 万 1,785 名、海外競馬の利用者 178 万 6,307 名を含む)の利用者数を加えたもの。

〔発売金〕

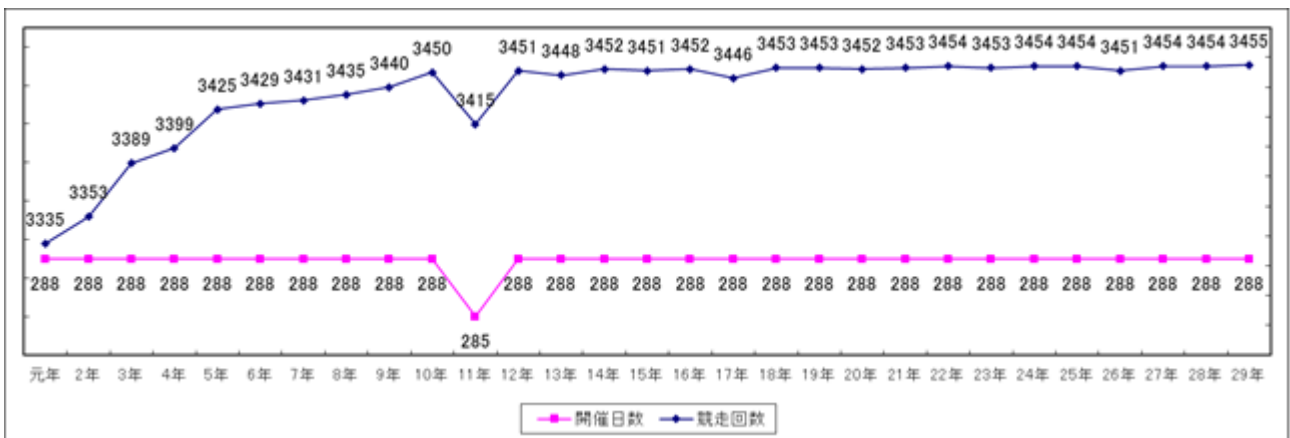
		対前年比	構成比(前年)
発売金総額	2 兆 7,689 億 9,286 万 3,200 円	103.0%	-
(内訳)			
開催場における自場分	864 億 9,630 万 3,200 円	97.1%	3.1%(3.3%)
" 他場分	534 億 5,489 万 6,200 円	94.6%	1.9%(2.1%)
パークウインズ	1,345 億 6,320 万 8,400 円	97.7%	4.9%(5.1%)
場外発売所	6,369 億 6,700 万 7,000 円	97.5%	23.0%(24.3%)
電話・インターネット投票(海外競馬除く)	1 兆 8,472 億 5,376 万 9,300 円	106.0%	66.7%(64.8%)
" (海外競馬)	102 億 5,767 万 9,100 円	107.8%	0.4%(0.4%)

- ・ 海外競馬を除いた発売金は 2 兆 7,587 億 3,518 万 4,100 円（対前年比 103.0%）。
- ・ 10 競馬場、39 場外発売所（盛岡・水沢・佐賀の地方競馬場含む）及び電話・インターネット投票において勝馬投票券発売業務を実施。
- ・ ウインズ浦和・ウインズ川崎・ウインズ三本木を含む 50 地方競馬施設に勝馬投票券発売業務を委託（J-PLACE 網走は 4 月 15 日に、J-PLACE 和歌山は 6 月 24 日にそれぞれ発売開始）。
- ・ 中央競馬の発売金（海外競馬及びWIN5を除く）に占める重賞競走の割合は 31.2%（前年実績 31.0%）、GI 競走の割合は 15.2%（前年実績 14.6%）。
- ・ GI 競走の発売金は対前年比 104.2%となり、前年実績を上回った競走は、全 24 競走中 15 競走（平成 29 年からGI 競走に昇格した大阪杯及びホープフルステークスの 2 競走を含む）。
- ・ 海外競馬の発売を 10 競走で実施。

【別表 3】開催回数の推移（平成元年以降）

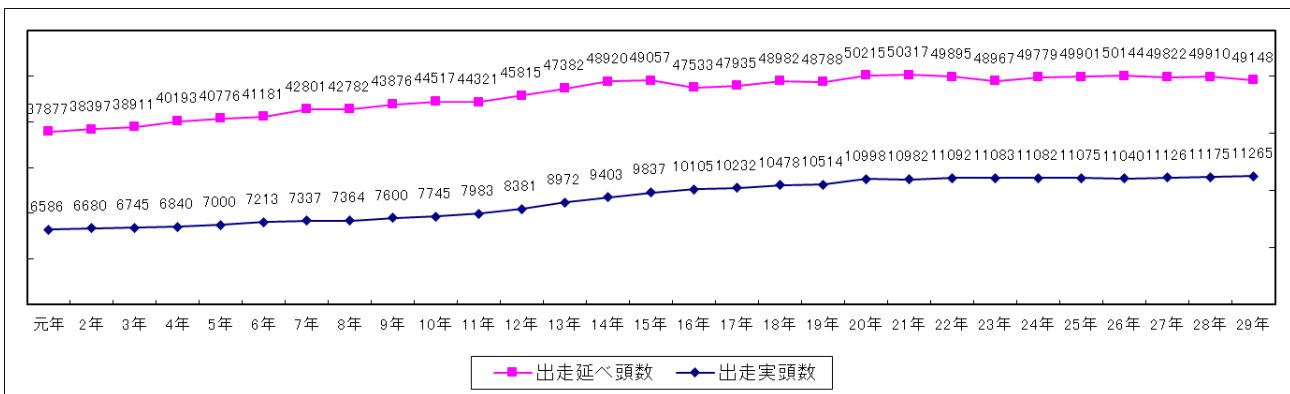


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（平成元年以降）

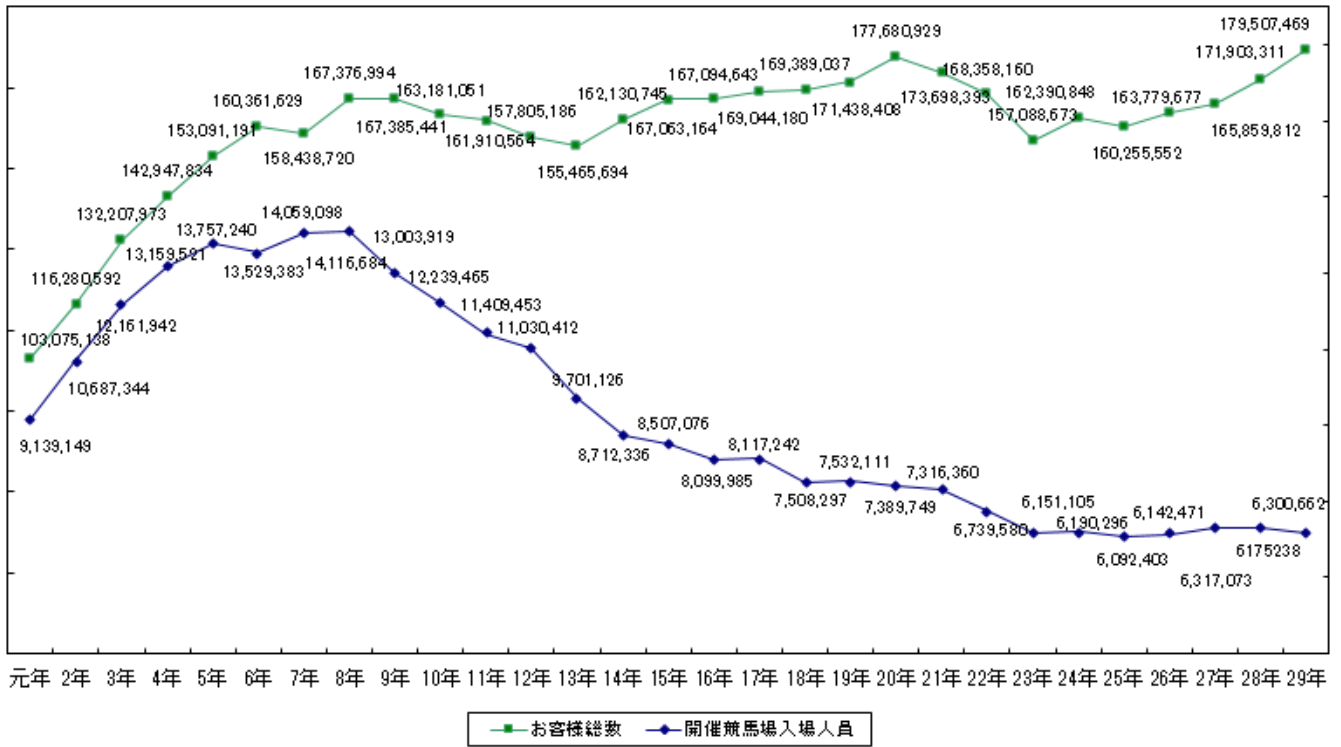


注) 平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

【別表 5】出走頭数の推移（平成元年以降）

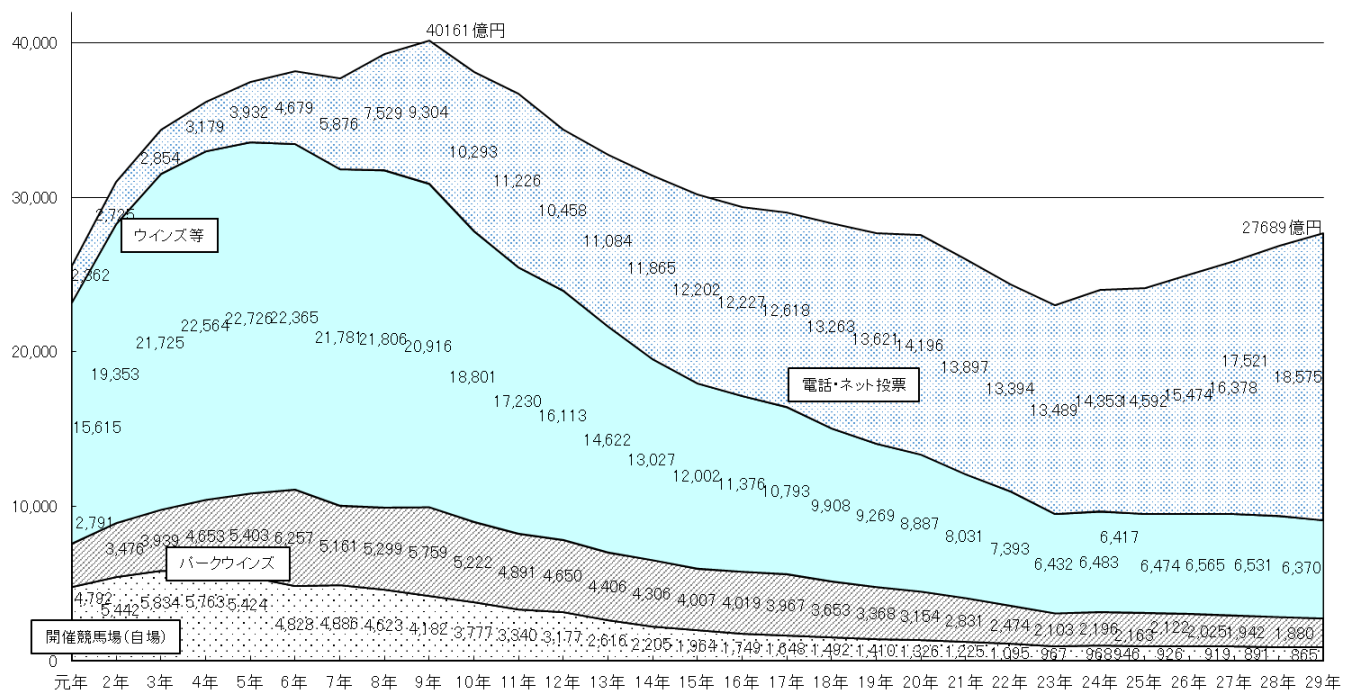


【別表6】お客様総数及び開催競馬場入場人員の推移

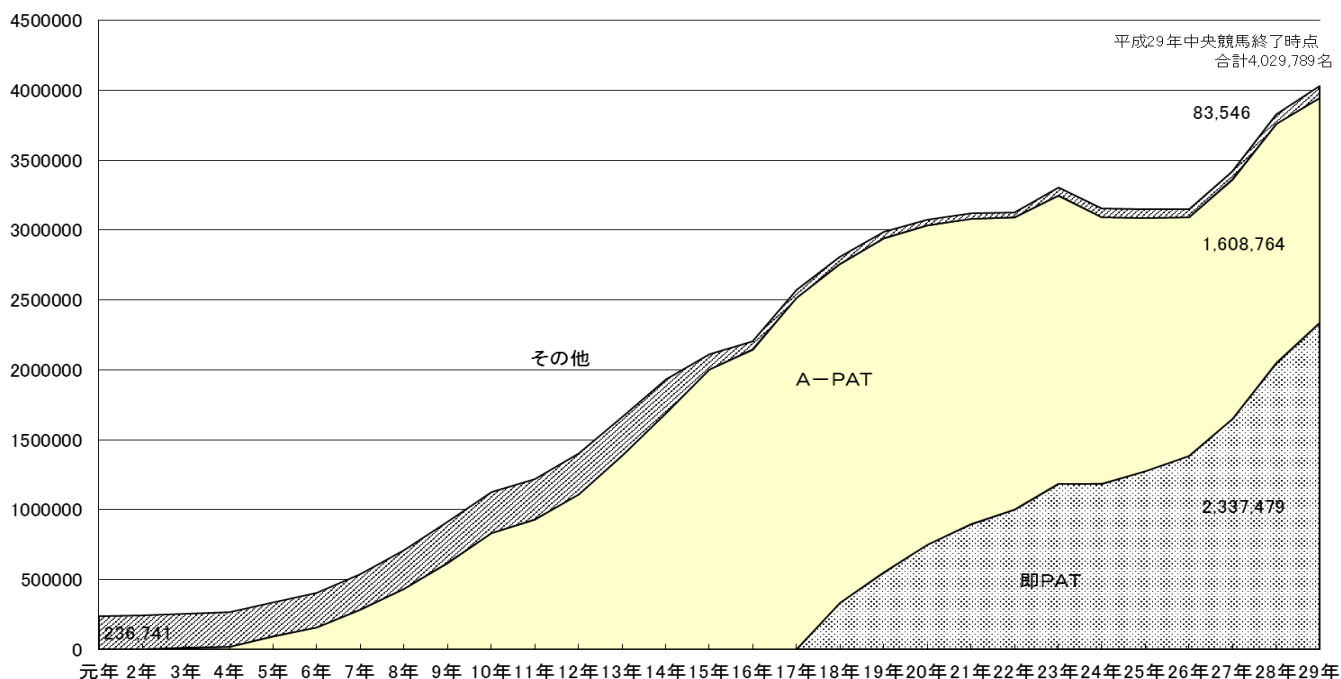


【別表7】発売金の推移

○ 発売金の推移(単位:億円)



【別表8】電話・インターネット投票会員数の推移(平成元年以降)

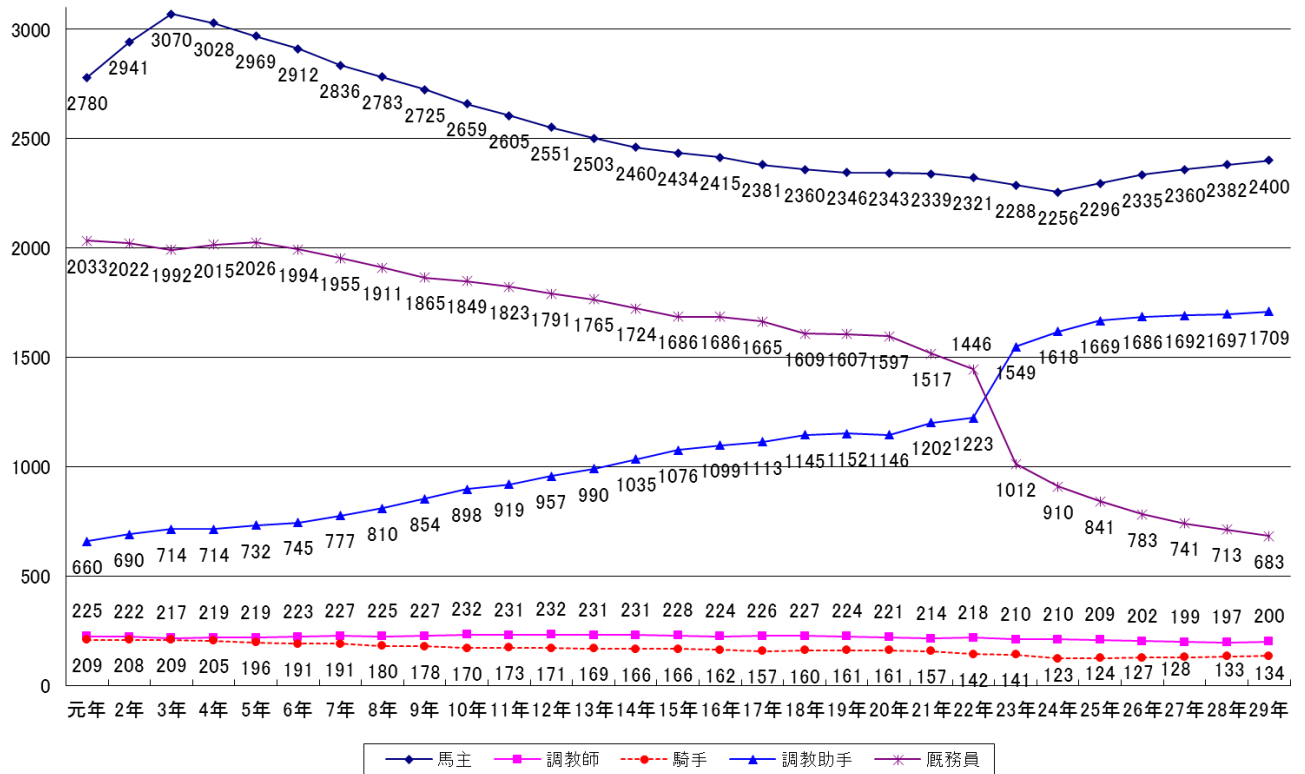


【別表9】投票法毎の発売金の構成比(%)の推移(平成元年以降)

	単勝	複勝	枠連	馬連	ワイド	馬単	3連複	3連単	WIN5
平成元年	2.8	2.2	94.9	-	-	-	-	-	-
2年	2.8	2.2	95.0	-	-	-	-	-	-
3年	2.9	2.3	81.3	13.5	-	-	-	-	-
4年	2.7	2.3	35.4	59.6	-	-	-	-	-
5年	2.8	2.5	26.6	68.1	-	-	-	-	-
6年	2.7	2.6	22.9	71.8	-	-	-	-	-
7年	2.6	2.6	19.9	74.9	-	-	-	-	-
8年	2.6	2.6	17.8	77.0	-	-	-	-	-
9年	2.8	2.8	16.4	78.0	-	-	-	-	-
10年	3.1	2.9	15.1	78.9	-	-	-	-	-
11年	3.1	3.0	12.9	79.3	1.7	-	-	-	-
12年	3.0	2.4	10.9	70.5	13.2	-	-	-	-
13年	3.1	2.4	9.9	70.4	14.2	-	-	-	-
14年	2.8	2.4	8.3	54.7	10.8	10.9	10.1	-	-
15年	2.7	2.5	6.4	34.2	5.8	24.1	24.3	-	-
16年	2.9	2.7	5.8	28.2	4.9	22.0	25.5	8.0	-
17年	3.1	3.3	4.7	21.1	4.2	17.2	19.3	27.1	-
18年	3.4	4.0	4.8	19.6	4.4	15.7	19.4	28.7	-
19年	3.8	4.2	4.6	18.6	4.4	14.5	20.1	29.8	-
20年	3.7	5.1	4.3	17.1	4.3	12.4	19.2	33.9	-
21年	3.9	5.9	4.0	15.6	4.5	10.4	18.0	37.7	-
22年	4.2	6.4	3.8	15.1	4.8	9.8	18.7	37.3	-
23年	4.5	7.2	3.5	14.3	5.1	9.1	18.1	36.2	2.0
24年	4.7	7.6	3.6	13.9	5.4	8.7	18.2	35.8	2.1
25年	5.0	8.3	3.5	13.6	5.5	8.5	18.2	35.6	1.8
26年	5.3	8.6	3.5	14.3	6.0	7.9	18.6	34.2	1.5
27年	5.5	7.7	3.6	15.1	6.8	7.6	19.6	32.7	1.4
28年	5.6	8.1	3.4	14.5	7.2	7.2	19.9	32.8	1.3
29年	5.9	8.4	3.3	14.4	7.6	6.9	20.1	32.2	1.2

海外競馬分を除く

【別表 10】馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（平成元年以降）



【別表 11】 国際競走等の状況

(1) J R A所属馬の海外遠征状況

出走月日	開催国	競走名(グレード)	距離	馬名	騎手名	調教師名	着順/出走頭数
3月4日	ドバイ	マハブアルシマル(G3)	ダート・1200m	ディオスコリダー	A. アッゼニ	高橋 義忠	7/9
		アルマクトゥームチャレンジラウンド3(G1)	ダート・2000m	ラニ	R. ムーア	松永 幹夫	6/8
3月25日	ドバイ	ゴドルフィンマイル(G2)	ダート・1600m	カフジテイク	福永 祐一	湯窪 幸雄	5/13
		UAEダービー(G2)	ダート・1900m	エビカリス	C. ルメール	萩原 清	2/16
				アディラート	武 豊	須貝 尚介	12/16
		ドバイゴールデンシャヒーン(G1)	ダート・1200m	ディオスコリダー	S. フォーリー	高橋 義忠	11/14
		ドバイターフ(G1)	芝・1800m	ヴィブロス	J. モレイラ	友道 康夫	1/13
		ドバイシーマクラシック(G1)	芝・2410m	サウンズオブアース	C. ルメール	藤岡 健一	6/7
		ドバイワールドカップ(G1)	ダート・2000m	アウオーディー	武 豊	松永 幹夫	5/14
	ラニ	R. ムーア		松永 幹夫	8/14		
	アポロケンタッキー	C. ルメール		山内 研二	9/14		
	ゴールドドリーム	J. モレイラ		平田 修	14/14		
4月30日	香港	クイーンエリザベス2世カップ(G1)	芝・2000m	ネオリアリズム	J. モレイラ	堀 宣行	1/8
6月10日	アメリカ	ベルモントステークス(G1)	ダート・2400m	エビカリス	C. ルメール	萩原 清	出走取消
9月10日	韓国	コリアスプリント(韓国G1)	ダート・1200m	グレイスフルリープ	武 豊	橋口 慎介	1/15
		コリアカップ(韓国G1)	ダート・1800m	ロンドンタウン	岩田 康誠	牧田 和弥	1/11
9月10日	フランス	フオワ賞(G2)	芝・2400m	クリソライト	武 豊	音無 秀孝	2/11
				サトノダイヤモンド	C. ルメール	池江 泰寿	4/6
10月1日	フランス	凱旋門賞(G1)	芝・2400m	サトノプレス	川田 将雅	池江 泰寿	6/6
				サトノダイヤモンド	C. ルメール	池江 泰寿	15/18
12月10日	香港	香港ヴァーズ(G1)	芝・2400m	サトノプレス	川田 将雅	池江 泰寿	16/18
				トーセンバジル	J. モレイラ	藤原 英昭	3/12
				キセキ	M. デムーロ	角居 勝彦	9/12
		香港スプリント(G1)	芝・1200m	レッツゴードンキ	岩田 康誠	梅田 智之	6/13
		香港マイル(G1)	芝・1600m	ワンスインナムーン	Z. パートン	斎藤 誠	12/13
		香港カップ(G1)	芝・2000m	サトノアラジン	H. ポウマン	池江 泰寿	11/14
				ネオリアリズム	J. モレイラ	堀 宣行	3/12
ステファノス	H. ポウマン			藤原 英昭	4/12		
		スマートレイアー	武 豊	大久保 龍志	5/12		

(2) 外国馬のJ R A競走への出走状況

競走名	馬名	性	年齢	所属国	着順
安田記念(G I)	ビューティーオンリー	せん	6歳	香	6着
	コンテンツメント	せん	7歳	香	10着
スプリンターズS(G I)	ブリザード	せん	6歳	香	5着
ジャパンカップ(G I)	アイダホ	牡	4歳	愛	5着
	ギニョール	牡	5歳	独	9着
	ブームタイム	牡	6歳	豪	12着
	イキートス	牡	5歳	独	15着

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（平成 29 事業年度）

【JRA直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額
1. ウィンズ防災体制整備事業	都市型ウィンズにおける、帰宅困難者を想定した防災備蓄品の配備（更新）	8,685,100
2. キャッシュレス投票システム 開発事業	キャッシュレス投票の導入に向けたシステム開発	1,080,980,000
3. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・ 競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・ メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・ 馬を活用した催事等の実施 	2,296,565,029
4. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた、競馬場等の近隣医療機関との連携強化	46,861,200
5. 国際競馬振興事業	国際競馬シリーズの運営、アジア競馬振興関連経費等	70,392,261
6. 地方競馬ネット投票システム更新 事業	地方競馬発売のための本会インターネット投票システムの更新	134,900,000
7. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会馬術競技開催に向けたJRA馬事公苑整備事業	JRA馬事公苑諸施設の整備	1,735,517,140
8. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【直営分】	三木ホースランドパーク、東京競馬場等馬術競技会開催支援	11,873,178
9. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取組み支援」事業【直営分】	引退競走馬の諸課題に関する調査研究、障害者乗馬・ホースセラピー等活動支援啓発	13,394,932
合 計		5,399,168,840

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額
1. 厩舎関係者海外研修事業	(一社)日本調教師会	厩舎関係者に対する研修の実施	15,000,000
2. 調教補助設備導入支援事業	(一社)日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備(ウォーキングマシン)導入に係る支援	22,579,018
3. 引退名馬繫養展示事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した名馬とのふれあい創出、名馬の余生の環境作り	58,214,000
4. 競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	18,252,000
5. 競馬技術交流促進事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	中国における馬産業の事情調査等	21,000,000
6. 地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	152,966,703
7. 地方競馬振興促進事業	各地方競馬主催者等	地方競馬場、発売施設の整備等	273,962,304
8. 海外への日本競馬情報発信事業	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外への映像提供、サイト等を通じた海外への日本の競馬情報発信	100,000,000
9. 競走馬理化学研究所における薬物検査体制の国際標準化事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬理化学研究所の薬物検査体制の国際標準化	260,000,000
10. 競走馬理化学研究所における競走馬の遺伝子ドーピング及び遺伝的健全性対策事業	(公財)競走馬理化学研究所	競走馬の不正な遺伝子操作の抑止及び規制に係る事業	270,000,000
11. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬術競技強化対策事業	(公社)日本馬術連盟 (公社)日本近代五種協会	東京オリンピック・パラリンピックで好成績をあげるための選手強化、優良競技馬の確保等	713,900,000 17,000,000
12. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた馬事公苑整備工事に伴う各種馬術競技会開催等支援事業【助成分】	(公社)日本馬術連盟	馬事公苑整備工事に伴い影響を受ける各種馬術競技会が安定的に開催されるための支援	85,500,000
13. 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とする「馬術の裾野拡充」及び「引退競走馬のセカンドキャリア形成等に向けた取り組み支援」事業【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	馬に係わる人材の養成、障害者乗馬・ホースセラピー活動の充実、引退競走馬の乗用馬への転用促進等	57,800,000
合計			2,066,174,025

②畜産振興事業(平成29事業年度)

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1. 福島県の畜産業復興のための消費者調査とリスク事業	国立大学法人 東京大学	福島県の畜産業復興のため、全国の消費者における被災地産畜産物に対する知識・評価等について意識調査を実施し、平成23年度から実施してきた調査成績との経年的比較を行い、今後重点的に提供していく情報の特定や提供方法を解析するとともに、ウェブの情報提供ツール改善やサイエンスカフェを開催し、消費者への理解醸成を図る事業。	9,711
2. 被災地で飼養される馬の福祉向上事業	国立大学法人 鹿児島大学	より快適で健康的な馬の飼養環境を提供するため、東日本大震災被災地で飼養される馬の飼養状況、健康状態及び防疫状況を継続的に調査し、適切な飼養管理法指導及び防疫指導を行う事業。	10,876
3. 被災地産食肉消費回復支援事業	(公財) 日本食肉消費総合センター	福島県産食肉に対する風評被害を軽減し消費の回復を支援するため、シンポジウム及び試食販売会等を開催する事業。	37,282
4. 被災地復興支援酪農体験事業	(一社) 中央酪農会議	酪農への理解醸成及び被災地の酪農復興を図るため、福島県及び熊本県の児童等に対する乳牛とのふれあい体験等を実施する事業。	5,560
5. 被災地食肉需要拡大復興支援事業	全国食肉事業協同組合連合会	東日本大震災及び熊本地震の被災地の復興支援のため、農業祭等催事に参加し被災地産食肉の情報提供や試食販売、アンケート調査を実施するとともに、消費者による被災地の生産地・流通施設の視察を通じて、被災地産食肉の理解醸成を図る事業。	35,563
6. 障がい者が参画する養蜂環境の調査研究事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	障がい者の養蜂への参画支援のため、養蜂実績のある障がい者施設での調査等を行い、養蜂具開発及び養蜂環境等整備をした上で実証飼育を実施するとともに、労力削減、蜂蜜収量増加、販売状況の実証実態調査を実施し、飼育事例集及びDVD等の作成、指導者の養成等により障がい者養蜂の普及啓発を行う事業。	29,935
7. 国産飼料稲の安全に資する管理手法調査事業	国立大学法人 岐阜大学	耕畜連携による国産粗飼料の生産利用拡大のため、水田と肉用牛農家間で問題となる病原体が国産飼料稲へ伝播する環境要因を明らかにする事業。	13,244
8. 飼料原料リスク管理高度化事業	協同組合 日本飼料工業会	配合飼料価格低減及び安全な国産畜産物供給に資するため、港湾段階における一元的な飼料原料のハザード情報の共有、業界横断型データベースの構築、運用により新たなリスク管理システムの有効性を検証することで飼料リスク管理の高度化を図る事業。	35,830
9. 食肉処理施設HACCPシステム普及事業	(公財) 日本食肉生産技術開発センター	HACCPシステムによる衛生管理を食肉処理施設へ早急に普及するため、HACCPシステムを構築するための手引書等の作成、HACCPシステム研修会開催、衛生管理体制が脆弱な食肉処理施設への直接指導を実施する事業。	14,078

10. 日本版畜産GAP普及促進に関する実証事業	(公社) 畜産技術協会 道東あさひ農業協同組合	日本版畜産GAP (農業生産工程管理) の取得促進のため、国の整備する日本版畜産GAP取得支援システムと連携し、生産者がより簡便に認証取得を行える労務軽減技術モデルを確立、普及することを目的とする事業。	77,742
11. 国産食肉理解醸成食育推進事業	全国食肉事業協同組合連合会	食肉生産の理解醸成と国産食肉の需要拡大に資するため、国産食肉の安全性等に関する理解醸成を図る資料等を作成するとともに、出前講座、研修会、料理セミナー、体験交流会を実施する事業。	40,298
12. 食肉流通HACCPシステム普及推進事業	全国食肉事業協同組合連合会	食肉卸・小売業者がHACCPシステム導入義務化に対応するため、実態調査、研修会、HACCPシステム導入マニュアルの作成、普及セミナー開催、指導者育成等を行い、食肉処理及び販売業者の規模・経営実態に即したHACCPシステムの普及手法の確立を図る事業。	309,708
13. 薬剤耐性対策普及啓発促進事業	(公社) 中央畜産会	畜産分野で使用されている抗菌剤について、薬剤耐性菌問題や抗菌剤の慎重な使用に関する理解意識の向上のため、薬剤耐性に関する普及啓発活動の実施、アンケート調査を行い獣医師等の薬剤耐性に関する認知度を把握検証する事業。	16,740
14. 農場HACCP取組体制緊急強化事業	(公社) 中央畜産会	農場HACCPの取組みの普及・推進のため、認証制度の評価・検証等を行い、農場への取組促進の指導体制の強化、認証審査に必要な審査員の養成等を実施する事業。	222,218
15. 乳温遠隔監視システムによる生乳安全衛生管理実証調査事業	十勝農業協同組合連合会	消費者ニーズに対応した安全安心かつ高品質な生乳の生産体制の構築等のため、従来より運用されている「乳温遠隔監視記録システム」の機能拡充に基づく搾乳・貯乳管理工程の機能強化と現地実証を行う事業。	137,054
16. シェフと支える放牧牛肉生産体系確立事業	(一社) 全日本・食学会	酪農家の経営安定、国内肉資源の有効活用のため、ジャージー種・ブラウンスイス種等の去勢牛を用いて新一環飼育体系を実証展示するとともに、と畜後に熟成肉等としての高付加価値化を確立する事業。	61,895
17. 画像解析を用いた総合指数による和牛改良事業	国立大学法人 帯広畜産大学	高精細枝肉横断面画像の画像解析情報を活用して改良指標となると見込まれる経済指標値 (仮称: 和牛総合指数 (十勝)) を確立するとともに、和牛総合指数を含む各種解析の自動化を可能とする仕組みを構築し、肉用牛の効率的な育種改良・肥育管理方法の改善を行う事業。	77,124
18. 鶏卵及び加工卵流通実態調査事業	(一社) 日本養鶏協会	鶏卵生産者の経営と鶏卵価格の安定を図るため、アンケート調査に基づく鶏卵及び加工卵の流通実態分析と鶏卵生産者への情報提供を行う事業。	3,500

19. 和牛の遺伝的多様性等活用調査研究事業	(一社) 全国肉用牛振興基金協会	多様化するニーズに応えた高付加価値な牛肉の生産流通の実現のため、食べて美味しいと感じる「美味しさ」要素の指標化手法を確立するとともに、産肉能力、生涯生産能力等に特長のある系統の遺伝的能力データの蓄積と、美味しさ情報との遺伝的データ・血統情報をリンクした総合評価による家畜改良や増殖の推進を行う事業。	114,370
20. 肉用牛取引実態調査事業	(一社) 全国肉用牛振興基金協会	子牛生産・市場流通全体でのコスト低減及び肉用牛生産者、購買者等の利便性向上のため、市場の取引実態や管理運営等の状況など肉用牛取引の全体像を調査し、家畜市場の再編や市場機能の向上を推進する事業。	17,463
21. 乳用牛DNA情報による長命連産性向上事業	(一社) 日本ホルスタイン登録協会	酪農経営の安定及び生産性向上に必要な長命連産性の向上を図るため、ホルスタイン種の未経産牛の標準発育値の設定及びDNA情報を活用した体のサイズや歩様等を含む肢蹄の改良手法を開発するとともに、長命連産性に特に優れた雌牛の実証展示を行い、その改良手法の普及啓発を行う事業。	147,901
22. 和牛の地域特性活用ゲノム選抜手法普及事業	(公社) 畜産技術協会	和牛の地域集団の特性を生かした改良増殖のため、SNP情報を用いたゲノム育種価評価手法の解析手法取得研修会を実施するとともに、手法の普及に向けたセミナーを開催し分析解析業務の加速化等を図る事業。	120,926
23. 採卵鶏のAWに関する実証調査事業	(公社) 畜産技術協会	採卵鶏における我が国の気候風土環境下に対応したAW（アニマルウェルフェア）推進を図るため、AW対応鶏舎に関する実証調査を実施し、飼養管理の実態に即した知見を得るとともに、採卵鶏の飼養管理指針改訂のための検討及び改善策等を加えたモデルの作成、提示を行う事業。	54,494
24. 酪農労働力セーフティネット強化事業	(一社) 酪農ヘルパー全国協会	酪農経営の労働力基盤の確立に必要な持続可能なヘルパー供給体制の構築のため、互助制度の参加促進、利用組合等の強化、新たな傷病時利用保険制度の検討及び開業ヘルパーの活用推進等を行う事業。	40,739
25. 酪農経営・労働条件実態調査事業	(一社) 中央酪農会議	酪農経営における労働条件改善のため、酪農経営の実態を把握し、特に長時間労働・周年拘束性など労働条件問題を解決するための対策への取組状況を調査する事業。	20,069
26. 乳用牛群飼養管理技術向上対策事業	乳用牛群検定全国協議会	飼料効率を高め生乳生産量を効果的に増大させるため、牛群検定において飼料効率に係るデータを効率的に収集精緻化し、新たな飼料効率を用いた生産システムの改善を行う事業。	123,818

27. 乳肉用牛増頭等生産システム高度化推進事業	(一社) 家畜改良事業団	乳用牛及び肉用牛の生産基盤の強化を図るため、個別に利用されている代謝プロファイルテスト、ゲノミック評価及び性選別精液等の実用化されている技術を組み合わせ、酪農・肉用牛生産に高付加価値をもたらす高度な生産システムをビジネスモデルとして構築・実証する事業。	212,142
28. とうもろこしすす紋病抵抗性遺伝子集積促進技術開発事業	(一社) 日本草地畜産種子協会	全国的な重要病害となってきたとうもろこしすす紋病の対策を強化するため、本病に対する複数の抵抗性遺伝子マーカーの開発により国内育種及び海外からの導入品種を効率的に選抜し、優良品種の開発・普及を迅速化する事業。	53,273
29. 飼料用稲高度生産・利用促進事業	(一社) 日本草地畜産種子協会	水田を活用した低コスト飼料生産を推進するため、飼料用稲専用品種の展示ほ場の設置及び栽培利用技術の指導等を通じ、多収を示す専用品種の利用促進と定着化を図る事業。	56,804
30. 新需要対応牧草品種開発・普及促進事業	(一社) 日本草地畜産種子協会	飼料自給率向上とコスト低減を図るため、牧草類のうち最も高栄養なライグラス類について、従来の栽培不可地域での利用や栽培体系の課題に対応した利用が可能な高能力品種を開発する事業。	118,651
31. AWに配慮した家畜輸送等指針作成事業	(公社) 畜産技術協会	家畜の生産・流通等でのAW向上を図るため、国際的なAW基準に対応した家畜の輸送及び疾病管理目的の殺処分に関する指針を作成するとともに、生産者及び畜産関係機関等に配布する事業。	7,802
32. 畜産分野における地球温暖化緩和技術の調査普及事業	(一財) 畜産環境整備機構	畜産業の健全な振興と現場における温暖化対策の普及推進のため、地球温暖化対策技術を体系的に評価・整理する事業。	5,800
33. 高機能型異種堆肥造粒物の調製・混合利用技術の開発普及事業	(一財) 畜産環境整備機構	化学肥料に依存しない環境保全型農業の推進を図るため、畜種別堆肥の簡易・低コスト造粒物調整技術の開発、混合利用による施肥設計手法の開発、作物栽培技術の実証を行う事業。	71,009
34. 日本型悪臭防止最適管理手法を用いた畜産悪臭苦情軽減技術開発普及事業	(一財) 畜産環境整備機構	畜産農家における効率的な悪臭軽減対策を推進するため、平成28年度までの事業で策定した手引書「日本型悪臭防止最適管理手法」について、畜舎全体を対象とした実証試験を実施しその効果を確認する事業。	73,165
35. 映像を活用した畜産経営高度化技術普及事業	(公社) 中央畜産会	畜産物の生産性向上及び消費者への理解醸成を図るため、各地域の優良な畜産物生産・経営技術情報、女性及び障がい者の活躍促進、先進的な畜産物輸出促進活動等の情報を収集し、映像情報として提供する事業。	45,299
36. 豚肉の理化学特性解析と飼料による高品質化事業	国立大学法人 新潟大学	日本の豚肉の高付加価値化を図るため、豚肉の美味しさに関わる要因を科学的に解析するとともに、美味しさ成分を増加させる飼料給与条件を決定し飼養技術を確立する事業。	7,976

37. 乗用馬防疫推進事業	(公社) 全国乗馬倶楽部振興協会	乗馬クラブ等で飼養されている乗用馬において、馬インフルエンザ、日本脳炎、破傷風等の伝染性疾病発生の予防推進を図る事業。	35,024
38. 馬伝染性子宮炎自衛防疫普及事業	(公社) 日本軽種馬協会	未だ世界各国で発生している馬伝染性子宮炎(CEM)の再侵入防止、早期発見及び蔓延防止のため、ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)検査を実施するとともに、獣医師等を対象としたCEMの指導啓蒙に関する講習会を開催する事業。	36,367
39. 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業	家畜衛生対策推進協議会	野生獣による伝染病の疾病拡大や人獣共通感染症の浸潤拡大等、家畜飼養衛生管理上の危害を防止するため、家畜衛生関係者を中心とした地域情報収集交換体制の整備及び有事における連絡調整機能の確立と衛生実態調査を行うとともに、家畜伝染病侵入防止対策や野生獣の衛生的作業管理等の普及を推進する事業。	163,097
40. 家畜の呼吸器疾患制御のための事業	国立大学法人 東京大学	牛の最重要疾患である呼吸器病症候群(BRDC)の感染制御のため、その原因ウイルスである可能性が高いD型インフルエンザウイルス(FluD)について家畜における感染実態を調査し、その生物性状やBRDCとの関連性を明らかにするとともに、感染制御法を検討する事業。	25,554
41. 家畜疾病、自然災害緊急支援体制整備事業	畜産経営支援協議会	口蹄疫等の家畜伝染性疾病や地震等大規模災害が発生した際の初動対応に必要な緊急用機材及び資材の購入、備蓄、運搬を支援する事業。	204,681
42. 地域豚疾病緊急対策推進事業	(公社) 中央畜産会	養豚農場での生産性を著しく阻害する疾病(PED、PRRS等)の発生を低減させるため、養豚主要生産地域の自衛防疫組織による疾病発生低減排除対策の計画立案を行うとともに、計画実施農場を含む自衛防疫組織に対して必要な防疫対策等に係る支援を行う事業。	269,884
43. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業	(公社) 中央畜産会	馬インフルエンザ、馬鼻肺炎等伝染性疾病の発生防止の徹底及び日本脳炎、破傷風等疾病に対する高い免疫確保等を図るため、生産者等と一体となったワクチン予防接種等を行う事業。	175,371
44. 馬飼養衛生管理特別対策事業	(公社) 中央畜産会	多様化している馬の飼養衛生管理の充実強化を図るため、馬飼養衛生管理に必要な感染症の知識習得、技術指導書の作成、地域馬の飼養状況や衛生管理に関する実態調査等を行う事業。	38,906
45. 臨床獣医師感染症等対策強化推進事業	(公社) 中央畜産会	家畜疾病の早期発見及び早期防疫対応を的確に実施するため、新規獣医師に対する基礎臨床診療技術等に関する研修を実施するとともに、中堅獣医師に対して海外悪性伝染病等の侵入防止対策や防疫体制を拡充する方策等を推進するための講	142,728

		習会の開催等を行う事業。	
46. 子実とうもろこしの供給システムに関する調査研究事業	津別町農業協同組合	国産子実とうもろこしの生産拡大を図るため、国産子実とうもろこしの生産及び流通実態について調査する事業。	1,080
47. 酪農後継者育成推進事業	全国酪農青年女性会議	全国の酪農家の交流を通じ後継者育成を図るため、全国酪農発表大会を開催し、全国の優良かつ先進的な経営事例や取組、酪農後継者や新規就農希望者等への情報提供を行う事業。	4,885
48. 花粉交配用小型生物分解性巣箱巣脾実用実証事業	(一社) 養蜂産業振興会	花粉交配用蜜蜂の効率的活用及び安定的供給を図るため、ハウス等における花粉交配用蜜蜂の衛生対策、輸送対策等に大きな効果が見込まれる小型生物分解性巣箱及び巣脾の実用性実証を行い、花粉交配用蜜蜂の飼養管理状況の改善を図る事業。	15,600
49. 牛繁殖基盤強化技術向上事業	(一社) 日本家畜人工授精師協会	牛の繁殖成績の向上を図るため、家畜人工授精師が発情観察において携帯性超音波画像診断装置を活用する手法を普及することにより、手技に頼っていた直腸検査技術の正確性を向上させる事業。	9,312
50. 和子牛増頭経営の普及性に関する調査事業	(公財) 日本食肉消費総合センター	繁殖牛の増頭等による和子牛供給の増加を図るため、和子牛を増頭させている経営について類型ごとに整理を行った上で、取組内容、支援組織の役割等を調査し、和子牛増頭の取組参考知見を提供する事業。	7,544
51. X線三次元画像処理装置の研究開発事業	食肉生産技術研究組合	食肉処理施設において、部分肉処理をすることにより、食肉の安全性確保及び食肉流通の効率化を図るため、脱骨作業熟練者と同等の能力を有する豚部分肉自動脱骨装置の実用化を図るためのX線三次元画像処理装置の開発を行う事業。	54,446
52. 種鶏孵卵場防疫対策強化事業	(一社) 日本種鶏孵卵協会	良質素ひなの安定供給を図るため、種鶏孵卵業で問題となっているコクシジウム症及びアデノウイルス症の現状調査を実施し有効策を明らかにするとともに、大腸菌汚染対策として消毒法を開発する事業。	10,426
53. ダチョウ防疫強化対策事業	日本オーストリッチ事業協同組合	ダチョウ飼育農家の防疫強化対策のため、全国の主要なダチョウ農家での実態調査及び現地指導を行い、その結果を踏まえダチョウ農場防疫指導マニュアルを作成し、関係者等への配布及び一般公開する事業。	3,296

54. 初生ひな鑑別師養成・鑑別技術安定化及び新技術情報収集事業	(公社) 畜産技術協会	初生ひなの雌雄肛門鑑別技術の継承及び今後の養鶏産業の振興のため、初生ひな鑑別師養成講習会、肛門鑑別競技会を開催し技術の継承と強化普及等を図るとともに、新たな雌雄鑑別技術の情報収集や技術の比較検討を行う事業。	11,660
55. 在来馬等の里山での活用に向けた育成事業	(一社) 馬搬振興会	馬搬技術の振興と継承、馬事振興を図るため、在来馬である木曾馬等の育成調教を行い、農業で安全に活用できる馬の供給ひいては頭数増加を図るとともに、研修会等を開催し馬搬技術を継承する人材育成を行う事業。	8,611
56. 和牛のゲノム情報強化事業	国立大学法人 東京大学	和牛の育種改良の向上を図るため、和牛の正確なゲノム配列(ブラチナゲノム)の構築及び和牛の遺伝子情報の強化を行い、和牛の生産阻害因子である劣性遺伝病の原因を早急に特定し、育種改良を安心して行える仕組みを構築する事業。	87,490
57. 乳牛の低受胎対策新規技術開発事業	国立大学法人 北海道大学	乳牛の繁殖成績低下の改善を図るため、臨床現場に導入可能な子宮機能異常の診断及び治療法を開発・運用し、乳牛の受胎率向上に及ぼす効果と経済効果を実証する事業。	26,074
58. 障がい者乗用馬ならびに在来馬の生産法確立事業	国立大学法人 帯広畜産大学	障がい者乗馬等に適した馬の効率的生産及び日本在来馬の繁殖効率向上のため、乗用馬としての用途を継続しながら繁殖検査等を実施し、代理母馬への胚移植による生産モデルの確立を行う事業。	71,970
59. 畜産被害軽減のための野生害獣個体数抑制技術開発事業	国立大学法人 東京農工大学	シカ等の野生鳥獣による牧草被害は畜産現場で深刻であることから、新たな野生害獣個体数抑制技術の開発に取り組むとともに、その技術を現場に普及することで個体数の減少を図る事業。	51,056
小 計			3,885,121

(注) 上記の各事業は、(公財)全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額(千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	73,474
小 計			73,474
総 計			3,958,595

JRA賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(厩舎)
年度代表馬	キタサンブラック	(有) 大野商事	栗東・清水 久詞 厩舎
最優秀2歳牡馬	ダノンプレミアム	(株)ダノックス	栗東・中内田充正 厩舎
最優秀2歳牝馬	ラッキーライラック	(有)サンデーレーシング	栗東・松永 幹夫 厩舎
最優秀3歳牡馬	レイデオロ	(有)キャロットファーム	美浦・藤沢 和雄 厩舎
最優秀3歳牝馬	ソウルスターリング	(有)社台レースホース	美浦・藤沢 和雄 厩舎
最優秀4歳以上牡馬	キタサンブラック	(有) 大野商事	栗東・清水 久詞 厩舎
最優秀4歳以上牝馬	ヴィブロス	佐々木 主浩 氏	栗東・友道 康夫 厩舎
最優秀短距離馬	レッドファルクス	(株)東京ホースレーシング	美浦・尾関 知人 厩舎
最優秀ダートホース	ゴールドドリーム	吉田 勝己 氏	栗東・平田 修 厩舎
最優秀障害馬	オジュウチョウサン	(株)チョウサン	美浦・和田正一郎 厩舎

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	池江 泰寿 (栗東)
最高勝率調教師	中内田 充正 (栗東)
最多賞金獲得調教師	池江 泰寿 (栗東)
優秀技術調教師	堀 宣行 (美浦)

②騎手部門

最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
最高勝率騎手	M. デムーロ (栗東)
最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
MV J	C. ルメール (栗東)
最優秀障害騎手	石神 深一 (美浦)
最多勝利新人騎手	該当者なし